

2015年度通訳案内士試験

＜日本歴史対策セミナー＞資料

(2015年6月14日)

ハロー通訳アカデミー
植山源一郎

基本資料・無料学習サイト＜日本歴史＞対策

＜基本資料・無料学習サイト＞

＜日本歴史＞(2004年～2014年)の問題と解答例

<http://hello.ac/his2004.2014.pdf>

2014 年度＜日本歴史＞試験問題(原寸大)

<http://hello.ac/guide/2014history.pdf>

2013 年度＜日本歴史＞試験問題(原寸大)

<http://hello.ac/guide/2013history.pdf>

2012 年度＜日本歴史＞試験問題(原寸大)

<http://hello.ac/guide/2012history.pdf>

マラソンセミナー＜日本歴史＞テキスト

<http://hello.ac/marathon2012version/historytext.pdf>

＜日本歴史の最重要事項のまとめ＞(その1)

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/de13a21eeaaf21a717279ecf2cb08c7f>

＜日本歴史の最重要事項のまとめ＞(その2)

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/a97054e82b7db6ed87d18d8c8bb8e55b>

マラソンセミナー＜日本歴史＞動画学習コーナー

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/aa9caa987007e8ef9f390a0a88c6e667>

マラソンセミナー＜日本歴史＞音声学習コーナー

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/89f4804d90b83a179d69e92565f0a210>

第1 次邦文試験対策＜特訓1800 題＞無料自習学習コーナー

http://hello.ac/streaming/clinic/clinic_houbun/index.html

＜Flashcards Deluxe＞による学習法

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/35e45334cca19e6f8df802b215963d40>

＜Flashcards Deluxe＞の「日本歴史に出る写真」には、出題可能性の高い157枚の写真を収録してありますので、日本歴史を受験する受験者は、是非、活用してください。

＜Flashcards Deluxe＞でも、＜特訓1800題＞を4択形式で学習できます。

＜日本歴史＞の試験方法・合格判定

- ・試験は、日本の観光地等に関連する日本歴史についての主要な事柄（日本と世界との関わりを含む。）のうち、**外国人観光旅客の関心の強いもの**についての基礎的な知識を問うものとする。
- ・試験の方法は、多肢選択式（マークシート方式）とする。
- ・試験時間は、40分とする。
- ・試験の満点は、100点とする。
- ・問題の数は、40問程度とする。
- ・内容は、地図や写真を使った問題を中心としたものとする。
- ・合格判定は、原則として**70点**を合格基準点として行う。

＜日本歴史＞の問題作成委員の変遷

●問題作成委員

＜日本歴史＞の問題作成委員は、マークシート方式が採用された2004年から2014年まで、計2名が担当したようである。

A氏：2004年～2005年を担当

B氏：2006年～2014年を担当

B氏が、2015年を担当するかどうかは、不明である。

＜2006年～2014年＞の大問、小問の配点構成

●2006年度から2014年度までの日本歴史の問題は、下記のように、毎年、同じ出題形式、配点で出題されている。

＜1番＞地図を関連づけた5択問題10題（2点×10＝20点）

＜2番＞文化に関する5択問題5題（3点×5＝15点）

＜3番＞作品と著者の組み合わせに関する5択問題5題（3点×5＝15点）

＜4番＞政治、事件に関する5択問題5題（3点×5＝15点）

＜5番＞文化に関する5択問題5題（3点×5＝15点）

＜6番＞写真5葉を用いて、絵画、仏像、建築物などの作品名、作者、名称、所在地に関する5択問題10題（2点×10＝20点）

＜2014年度問題＞の正解、選択肢の用語解説

【大問1】

(小問1)の正解、選択肢の用語解説

★★【大宰府(ださいふ)】

奈良、平安時代に對外防備および九州を総管するために筑前国筑紫郡(現在の福岡県太宰府市)におかれた役所。古くから大陸との交通の要地を占め、白村江で唐、新羅の水軍に敗れた大和朝廷が大陸に対する防衛基地として創設したもの。(2009)(2011)(2014)

【西海道(さいかいどう)】

古代、律令(りつりょう)期における国の上部の地域単位である五畿(ごき)七道の一つ、およびそこに設定された官道の名称。西海道は九州にあたり、8世紀初頭ころには、筑前(ちくぜん)、筑後(ちくご)、豊前(ぶぜん)、豊後(ぶんご)、肥前(ひぜん)、肥後(ひご)、日向(ひゅうが)の7か国と壱岐(いき)、対馬(つしま)の2島からなっていた。(2014)

【遠の朝廷(とのおのみかど)】

都から遠く離れた地方にある政庁。陸奥(むつ)の鎮守府や諸国の国衙(こくが)などをさす。万葉集では大宰府や官家(朝鮮半島南部に置いた官府)についてもこの名称を使っている。(2014)

【三関(さんかん)(さんせき)】

日本古代律令制下における最重要の関。伊勢国鈴鹿関、美濃国不破関、越前国愛発(あらち)関の三つであり、おの東海道、東山道、北陸道が近江国から隣国に国境を越えた地点に位置した。(2014)

【秋田城(あきたじょう)】

古代、東北経営のために築かれた城柵(じょうさく)。城跡は秋田市寺内にある。蝦夷(えぞ)地経営の拡大とともに、733年出羽柵(でわのさく)を今の庄内地方からこの地に進めたのが起源。(2014)(2013)(2006)

【摂津職(せつしき)(677)】

律令制官司の一つ。摂津国の統治を任とした。奈良時代、難波宮のおかれた摂津は政治、交通上の要地であったが、平安遷都に際し延暦12(793)年3月廃止された。(2014)

★【水城(みずき)(664)】

664年大宰府防衛のために築造された土塁。福岡県太宰府市水城にその遺跡があり、博多方面から太宰府に至る関門にあたっていた。延長約1キロメートル、基底部幅約80メートルで、内側に水をたたえた。(2014)

(小問2)の正解、選択肢の用語解説

★★【首里城(しゅりじょう)】

沖縄県那覇市にある旧琉球王城。15世紀から19世紀まで尚氏の居城であった。昭和20年(1945)の沖縄戦で灰燼に帰したが、その後、守礼門・正殿などが復元された。(2014)(2006)

【尚巴志(しょうはし)(1372～1439)】

琉球の国王。第一尚氏王統第2代。在位1422-39。察度(さつと)王23年生まれ。尚思紹王の長男。中山(ちゅうざん)の武寧王を討って父を王位につけ、ついで山北、山南を攻略して琉球を統一。首里城を王都とし、明(みん)(中国)のほか日本、朝鮮などとの貿易をすすめた。(2014)

【勝連城(かつれんぐすく)(かつれんじょう)】

沖縄県うるま市勝連南風原(かつれんはえばる)にある城跡。13世紀ごろに創建され、代々勝連按司(あんじ)の居城と

して繁栄したが、1458年(長祿2)に国王軍により城主阿麻和利(あまわり)とともに滅んだ。(2014) (2006)

【王城城(うぶぐすくぐすく)】

沖縄県南城市玉城にあるグスク(城)跡。沖縄本島南部、知念半島の標高180mの丘陵上に営まれ、別名「アマツツグスク」という。(2014)

【今帰仁城(なきじんじょう)(なきじんぐすく)】

別名:北山城(ほくざんじょう、ほくざんぐすく)は、沖縄県国頭郡今帰仁村に位置する城跡である。14世紀、琉球王国成立以前に存在した北山の国王・北山王の居城であった。国の史跡に指定されている。(2014) (2006)

【座喜味城(ざきみじょう)】

沖縄県中頭郡読谷(よみたん)村にあった城(グスク)で、15世紀初期に読谷山按司(よみたんざんあじ)だった護佐丸(ごさまる)によって築城された。(2014)

(小問3)の正解、選択肢の用語解説

【朝鮮通信使(ちょうせんつうしんし)】

李氏朝鮮の国王が日本国王(日本の外交権者)に国書を手交するために派遣した使節。日本では朝鮮来聘(らいへい)使とも呼ぶ。(2014)

★【井伊氏(いいけ)】

江戸時代の譜代大名。藤原姓。藤原冬嗣の子良門の流れという。平安時代中期、その5世の孫共資は、遠江国引佐郡井伊郷井伊谷に住し、その子共保のとき初めて井伊氏を称した。室町、戦国時代は、今川氏に属したが、直政以来、代々徳川氏の重鎮となった。(2014)

★【彦根藩(ひこねはん)】

近江国(滋賀県)彦根に藩庁を置いた譜代大藩。1600年(慶長5)関ヶ原の戦いで東軍の軍奉行(いくさぶぎょう)として戦功のあった徳川四天王の一人井伊直政は、翌01年石田三成にかわり佐和山城主に封じられ、近江国で15万石、上野国で3万石、計18万石の大名となった。(2014)

★【彦根城(ひこねじょう)】

滋賀県彦根市金亀(こんき)町にある城。彦根藩井伊氏の居城。特別史跡。井伊直勝(直継)が1603年着工、1606年に本丸と天守が成り、1622年直孝によって完成。(2014)

【毛利氏(もうりし)】

戦国大名、近世の大名。祖は大江広元の子季光(すえみつ)で、相模国毛利荘に住し毛利氏を称した。1270年時親は父経光(季光の子)より安芸(あき)国吉田荘地頭職を譲られ、以後一族は国衆として勢力を伸張。(2014)

【池田氏(いけだし)】

江戸時代の外様大名。清和源氏。池田の名はその地名によるが、美濃国池田荘からとも摂津国池田荘からともいわれる。戦国時代、池田恒利は、織田信秀に仕え、その子信輝は信長に仕えた。(2014)

【浅野氏(あさのし)】

近世大名。外様。清和源氏頼光流土岐光時が尾張国丹羽郡浅野村に住して浅野氏を称し、その後裔長勝に起こるとする。長勝の婿養子が長吉(のち長政)で、織田信長に仕えたが、豊臣秀吉とは相婿であるため、豊臣政権では重んじられて五奉行の首座に列した。(2014)

【戸田氏(とだし)】

発祥を異にする複数の系統が存在する。もと、三河国渥美郡に根拠地をもった戸田氏からは、徳川氏に属して多くの近世大名・旗本、大藩重臣を輩出した。(2014)

(小問4)の正解、選択肢の用語解説

★★【八幡製鉄所(やはたせいてつじょ)】

明治34年(1901)日本初の銑鋼一貫操業を開始した官営製鉄所。昭和9年(1934)半官半民の日本製鉄となり、第二次大戦後、過度経済力集中排除法などに基つき八幡製鉄・富士製鉄など4社に分割、昭和45年(1970)に富士製鉄と合併して新日本製鉄となる。(2014)(2012)(2006)

★★【伊藤博文(いとうひろぶみ)(1841～1909)】

政治家。長州の人。初名は俊輔。松下村塾に学び、討幕運動に活躍。明治政府にあつて、帝国憲法の制定、天皇制の確立に尽力。初代首相・枢密院議長・立憲政友会総裁などを歴任。組閣四度に及び、その間日清戦争を遂行。(2006)(2008)(2011)

★【朝永振一郎(ともながしんいちろう)(1906～1979)】

物理学者。東京の生まれ。東京教育大学学長。場の量子論において超多時間理論、繰り込み理論を発表。量子電磁力学の発展に寄与し、昭和40年(1965)ノーベル物理学賞受賞。同27年には文化勲章受章。(2014)

★【江崎玲於奈(えざきれおな)(1925～)】

物理学者。筑波大学学長。大阪の生まれ。昭和32年(1957)エサキダイオードを発明。昭和48年(1973)、半導体の研究でノーベル物理学賞受賞。翌年、文化勲章受章。(2014)

【東京オリンピック(1964年10月10日～24日)】

第18回オリンピック競技大会。政府は10月10日の開会式を記念して国民の祝日、体育の日を定めた。なお、体育の日は1998年「国民の祝日に関する法律」の改正により、連休を作るため10月第2月曜日に変更された。(2014)

【日本万国博覧会(にほんばんこくはくらんかい)(1970年3月15日)】

(開会式は14日)～9月13日、国際博覧会条約(1928)に基づいて大阪の千里丘陵で開催された博覧会。EXPO'70、大阪万博とも呼ばれる。アジアで開かれた最初の国際博覧会で、基本テーマは「人類の進歩と調和」。(2014)

【大問2】

(小問1)の正解、選択肢の用語解説

★【重源(ちゅうげん)(1121～1206)】

鎌倉初期の浄土宗の僧。俊乗房(しゅんじょうぼう)・南無阿弥陀仏と号す。密教を学んだのち、法然から浄土教を学び諸国を遊行。三度入宋したといわれる。東大寺再建のための大勧進職に任じられ、天竺様式をとり入れた大仏殿を完成。(2014)

★【運慶(うんけい)(?～1223)】

平安末期から鎌倉初期の仏師。康慶の子。慶派の中心的仏師として活躍。豪放な力強さと写実に特色があり、鎌倉新様式を築いた。作品に東大寺南大門の金剛力士像、興福寺北円堂の無著像・世親像など(2014)。(2006)

★【快慶(かいけい)(生没年不詳)】

鎌倉時代の仏師。康慶の弟子。丹波講師・越後法橋・安阿弥などと号す。運慶の力強い作風と比べて、流麗で親しみやすく安阿弥様(よう)と称される。作品は、東大寺の阿弥陀如来・地藏菩薩像など30点近くが残る。1183年から1223年の記録はあるが生没年未詳。(2014)

★【湛慶(たんけい)(1173～1256)】

鎌倉時代の仏師。承安(じょうあん)3年生まれ。運慶の長男。父とともに東大寺、興福寺の復興造仏に従事。また高野山の金剛力士像、京都蓮華王院(れんげおういん)(三十三間堂)本堂の中尊千手観音像なども制作。(2014)

【四仏工(しぶっこう)】(ご参考)

日本の有名な四人の仏師。定朝(じょうちょう)・運慶・快慶・湛慶(たんけい)をいう。

★★【空也(くうや)(こうや)(903~972)】

平安中期の僧。天台宗空也派の祖。皇族の出とする説もあるが不明。常に市中に立って庶民に念仏をすすめ、貴賤(きせん)を問わず幅広い帰依者を得て、阿弥陀の聖・市の聖と尊称された。諸国を巡って、道路をひらき、橋を架けるなど社会事業に尽くした。(2014)

(小問2)の正解、選択肢の用語解説

★【吉田兼俱(よしだかねとも)(1435~1511)】

室町時代の神道家。本姓は卜部(うらべ)。吉田神社の神職。本地垂迹説に対して神主仏従説を唱え、陰陽五行説などを加えて吉田神道を大成。伊勢神宮から攻撃されたが、朝廷・幕府に取り入り、地方の神社に神位、神職に位階を受ける権限を獲得した。(2014)

【吉田神道(よしだしんとう)】

室町末期、吉田兼俱(よしだかねとも)が大成した神道一派。儒・仏・道三教を枝・葉・花実とし、日本古来の随神(かんながら)の道を法の根本であると唱える。近世に広く浸透した。元本宗源神道。唯一神道。卜部神道。(2014)

【垂迹(すいじゃく)】(古くは「すいしゃく」)(ご参考)

仏・菩薩が衆生(しゅじょう)を救うために仮の姿をとってこの世に現れること。また、その仮の姿。特に、日本では在来の神を仏・菩薩の垂迹であるとする。

★【本地垂迹説(ほんちすいじゃくせつ)】(ご参考)

仏・菩薩(ぼさつ)を本地とし、神を衆生救済のための垂迹とする説。法華経・大日経に基づいて説かれたもの。日本では、平安時代から各地の神社の本地仏が確定し、神仏習合が進められたが、明治の神仏分離により衰退。

★【反本地垂迹説(はんほんちすいじゃくせつ)】(ご参考)

神仏の関係を論じる際の一つの説で、神を本地、仏を垂迹とする思想。仏を本地、神を垂迹とする本地垂迹説を批判するもので、天台仏教の本覚思想の影響や神道思想の展開を背景としながら鎌倉時代以降広まった。

★【神仏習合(しんぶつしゅうごう)】(ご参考)

日本固有の神の信仰と外来の仏教信仰とを融合・調和するために唱えられた教説。奈良時代、神社に付属して神宮寺が建てられ、平安時代以降、本地垂迹説(ほんじすいじゃくせつ)やその逆の反本地垂迹説などが起こり、明治政府の神仏分離政策まで人々の間に広く浸透した。

【神仏分離(しんぶつぶんり)】(ご参考)

神仏判然ともいい、主として明治維新直後に行われた新政府による神仏習合の禁止と両者の分離を図る宗教政策をいう。仏教伝来以来、神道(しんとう)は1000年余にわたって徐々に仏教と習合し、長らく神仏習合(神仏混淆(こんこう))の時代が続いた。近世になると儒学や国学の排仏思想によって、神道から仏教色を排除する動きが出現し、水戸藩(茨城県)や岡山藩、会津藩(福島県)で地域的な神仏分離が行われた。この排仏意識は幕末に至っていっそう強まり、水戸藩や薩摩(さつま)藩(鹿児島県)では過激な寺院整理が行われた。また石見(いわみ)国(島根県)津和野(つわの)藩でも最後の藩主亀井茲監(これみ)によって独自の神社・寺院改革が行われ、維新政府の宗教政策の青写真となった。

【一条兼良(いちじょうかねら)(かねよし)(1402~1481)】

室町中期の政治家・学者。関白太政大臣。有職故実(ゆうそくこじつ)・古典に通じた当代随一の学者。著「花鳥余情」「古今集童蒙抄」「樵談治要(しょうだんちよう)」「東斎随筆」「尺素往来(せきそおうらい)」など。(2014)

★【北畠親房(1293～1354)】

南北朝時代の公家・武将・学者。後醍醐天皇に仕え、建武政権成立後、東北経営にあたった。南北朝分裂後、天皇を吉野に遷して南朝の重鎮として活躍。常陸小田城に拠ったとき「神皇正統記」を著した。(2014) (2008)

★【度会家行(わたらいいえゆき)(1256?～1351?)】

南北朝時代、伊勢神道を大成した神道家。伊勢外宮の禰宜(ねぎ)。南北朝時代の勤王家として北畠親房に大きな影響を与えた。著「類聚神祇本源」「瑚璉(これん)集」「神道簡要」(2014)

【ト部兼方(うらべかねかた)(生没年不詳)】

鎌倉中期の古典学者。懷賢(かねかた)とも記す。ト部家は、もと神祇官(じんぎかん)の下級官僚家の一つであったが、しだいにその地位を固め、また古典伝承の家としても知られていた。(2014)

(小問3)の正解、選択肢の用語解説

★★【坂上田村麻呂(758～811)】

平安初期の武将。延暦13年(794)蝦夷(えぞ)を征討し、同16年征夷大將軍となった。その後、胆沢城(いさわじょう)を造営し、蝦夷地平定に功を残した。京都の清水寺の創建者と伝えられる。(2014)

★★【胆沢城(いさわじょう)】

岩手県奥州市にあった古代の城。延暦21年(802)蝦夷(えぞ)征討に際し、坂上田村麻呂が築城。同23年、多賀城から鎮守府を移して東北経営の拠点とした。(2014) (2013) (2006)

【阿弭流為(あてりい)(?—802)】

奈良末から平安初頭の蝦夷(えみし)の族長。大墓公阿弭利為(たいものきみあてりい)ともいう。789年(延暦8)に胆沢(いさわ)(岩手県南部)を対象とする朝廷の征夷軍の侵攻に対し、強力な抵抗戦を指導して多大の損害を与えた。しかし、征夷大將軍坂上田村麻呂(さかのうえのたむらもろ)による胆沢攻略戦の成功に伴い、802年4月に盤具公母礼(ばんぐのきみもれ)および同族500人とともに降伏した。田村麻呂は助命を主張するが、同年8月、母礼とともに河内国(かわちのくに)杜山(もりやま)で処刑された。(2014)

【サー・ウィリアム・ウォレス(Sir William Wallace)(1270～1305)】

スコットランドの愛国者、騎士、軍事指導者。イングランド王エドワード1世の過酷なスコットランド支配に対して、スコットランド民衆の国民感情を高めて抵抗運動を行い、1297年のスターリング・ブリッジの戦いでイングランド軍に勝利をおさめた。この戦功で「ジョン王のスコットランド王国の守護官」に任じられるも、1298年のフォルクークの戦いでイングランド軍に敗れたため、職を辞した。その後も反エドワード活動を継続したが、スコットランド貴族の裏切りにあってエドワードに捕らえられ、残虐刑で処刑された。しかし彼の刑死によりスコットランドの国民感情は鼓舞され、ついにはエドワードのスコットランド支配を崩壊させるに至った。映画「ブレイブハート」。

【ラプ＝ラプ(Lapu-Lapu)(1491～1542)】

16世紀、フィリピンのマクタン島(セブ島の東沖合い)の領主であり、イスラム教徒の部族長。世界一周航海の途上でフィリピンへ来航し、キリスト教への改宗と服従を要求するフェルディナンド・マゼランに対して抵抗し、マクタン島の戦いでマゼラン軍を破った上、マゼランを討ち取った。フィリピンでは民族の誇りを守った国民的英雄とみなされている。

【文室綿麻呂(ふんやのわたまろ)(765～823)】

平安初期の公卿。弘仁元年(810)薬子(くすこ)の変で上皇方について捕らえられたが、のちに許され、坂上田村麻呂とともに蝦夷(えぞ)征討で武功をあげた。(2014)

【源頼義(みなもとのよりよし)(988～1075)】

平安中期の武将。頼信の長男。平忠常の乱で父に従って戦功をあげ、前九年の役では鎮守府將軍として安倍氏を

討ち、東国における源氏の勢力を強めた。(2014)

【源頼家(1182～1204)】

鎌倉幕府第2代将軍。頼朝の長男。母は北条政子。父の死後家督を継ぎ、征夷大將軍となった。北条氏の合議制による将軍権能の制限を嫌い、これを討とうとしたが失敗、伊豆の修禪寺に幽閉されて殺された。(2014)

★★【藤原清衡(1056～1128)】

平安末期の陸奥(むつ)の豪族。後三年の役で源義家に味方して異父弟清原家衡らを討ち、陸奥六郡と出羽の管領権を握り、奥州藤原氏の基を築いた。平泉に中尊寺を建立。(2014)(2011)

(小問4)の正解、選択肢の用語解説

★★【プチャーチン(1804-1883)】

ロシアの提督、政治家。海軍兵学校の出身。1842年カスピ海におけるロシアの権益を守るためイランに派遣された。52年日本との条約締結の命を受け軍艦パルラダ号に乗船してクロンシュタット港を出帆、翌53年8月(嘉永6年7月)に長崎に入港して開国・通商と千島・樺太の国境画定を求めた。おりからクリミア戦争前夜でイギリス、フランス両国との関係が悪化したためいったん長崎を退去、54年1月(嘉永6年12月)再び来航して幕府が派遣した筒井政憲、川路聖謨(としあきら)らと会談を重ねたが、交渉は不調のまま長崎を去った。(2014)

【ビッドル(1783～1848)】

米国の海軍軍人。望廈条約の批准書交換のため清を訪れた帰途、弘化3年(1846)に日本の浦賀に来航して開国を求めた。しかし、小型艦2隻のみで、また威圧を避けたため交渉は失敗した。(2014)(2011)

★★【レザノフ(1764～1807)】

ロシアの実業家。1804年に通商を開くため遣日使節として長崎に来航したが幕府に拒絶され、報復として樺太(からふと)・択捉(えとろふ)などを攻撃した。(2014)(2010)

【クルーゼンシュテルン(1770～1846)】

ロシアの軍人。日本への使節レザノフをのせた世界周航艦隊を指揮して、1803年に長崎につく。通商交渉を幕府に拒否されたのち、日本海を北上、北海道、千島などの沿岸を測量。ロシア人最初の世界一周をはたし、1806年帰国した。のち海軍大将。(2014)

【ポンペ(1829-1908)】

幕末に来日したオランダの海軍軍医。日本が系統的な西洋医学を導入するのに大きな役割を果たした。ベルギー生まれ。ユトレヒト大学卒、海軍軍医となり、1857年幕府から招かれ第2次海軍伝習所医官として着任。在日5年間、幕府医官松本良順を中心に全国から集まった医学生を中心に、人体解剖・臨床医学講義を含む幅広い教育を行い、これらの多くは講義録として残されている。コレラ予防、性病予防、種痘にも従事。61年彼の要請で長崎養生所を建てたが、これは、日本における近代病院の最初であるとともに、長崎大学医学部の原点ともなっている。(2014)

★★★【ペリー(1794～1858)】

アメリカ海軍軍人。日米和親条約の締結使節。アフリカ沿岸の奴隷貿易取締り、アメリカ＝メキシコ戦争などで活躍。1852年東インド艦隊司令官となり、同年3月日本開港を目的とする遠征艦隊司令官に任命され、嘉永6年6月3日(1853年7月8日)M.フィルモア大統領の将軍あて書簡をたずさえ、軍艦4隻で江戸湾に到着、威圧的に開港を迫り、翌年再び江戸へ来て日米和親条約を締結した。(2010)(2009)

(小問5)の正解、選択肢の用語解説

★★【吉田茂(よしだしげる)(1878~1967)】

第2次大戦後の占領体制下における日本の保守政治を代表する政治家。土佐自由党の土竹内綱(たけのうちつな)の五男として東京に生まれる。幼時に貿易商吉田健三の養子となる。自由民権の志士であり自由党の幹部であった竹内綱が実父であったこと、イギリスと関係の深い貿易商である吉田健三が養父であったこと、宮廷を背景とする政界の黒幕である牧野伸顕が岳父であったこと、これらの生活環境が吉田茂に儒教的・英米派的・実業的政治感覚を植えつけた。(2014)(2013)

★★【鳩山一郎(はとやまいちろう)(1883~1959)】

政治家。戦時中大政翼賛会に反対した数少ない政治家。戦後自由民主党を結成して、首相に。大正・昭和期の政党政治家。東京都出身。政治家であり弁護士でもあった父和夫の法律事務所に入り、東京市会議員から1915年(大正4)衆議院議員へ進んだ。田中義一内閣の書記官長、犬養毅・斎藤実両内閣の文相などを歴任、在任中に滝川事件がおきた。太平洋戦争中は大政翼賛会と東条内閣を批判。戦後派日本自由党創立の中心となり組閣を目前とするが、公職追放により政界から一時退く。1954年(昭和29)第5次吉田内閣の総辞職後、日本民主党・自民党の総裁として内閣を組織。56年日ソ共同宣言に調印、国交を回復させた。(2014)(2013)

★【片山哲(かたやまてる)(1887~1978)】

大正・昭和期の弁護士、政治家。和歌山県出身。東京帝大法科大学独法科にすすみ、1912年卒業、弁護士となる。20年星島二郎らと中央法律相談所を開設、“法律の民衆化”をめざす。26年社会民衆党結成に参加、書記長に就任、30年の総選挙で衆議院議員に当選。40年反軍演説をした斎藤隆夫の除名に反対して安部磯雄らと社会大衆党を脱党。戦後日本社会党結成に参加、書記長に就任、46年委員長となる。(2014)

★【幣原喜重郎(しではらきじゅうろう)(1872-1951)】

第1次世界大戦後のワシントン体制のもとで活躍し、当時の日本外交を代表する外交官。憲政会・立憲民政党系の内閣の外相を歴任し、その国際協調主義的な政策は「幣原外交」と呼ばれた。第2次大戦後2代目の首相。大阪府生れ。兄の坦(ひろし)(1870-1953)はのち台北帝大総長。夫人は岩崎弥太郎の娘で加藤高明夫人の妹。第三高等学校を経て帝国大学法科大学を1895年に卒業、外交官試験に合格して外務省に入る。仁川、ロンドンなどに在勤ののち本省の電信・取調各課長、取調局長となり、外国人顧問のアメリカ人デニソンHenry W. Denison(1846-1914)に師事して外交事務に習熟し、屈指の英語力を磨いた。(2014)(2013)

★★★【岸信介(きししんすけ)(1896~1987)】

政治家。山口県生まれ。岸信介は、叔父松介の義弟松岡洋右や東條英機、その片腕の星野直樹、日産の鮎川義介らとともに満州の「ニキススケ」と呼ばれ、戦前の統制社会、国家社会主義(ファシズム)の実験を満州で行い、それを日本の国家体制として実現した中心的人物の一人である。外では松岡洋右が国連を脱退し、日独伊防共協定を締結、ファシズム国家の枢軸国体制を作り、内では岸らが国家総動員法による翼賛体制を企画・立案した。そして岸信介は東條内閣では商工大臣となってアジア諸国地域での戦争継続を可能にする戦時体制を遂行した。しかし敗色が濃くなると、東條英樹から離反し、倒閣に動いて自らの延命をはかった。戦後、岸は、A級戦犯として逮捕されるも、追放解除後、ファシズムを支える高級官僚の1人であった実弟の佐藤栄作とともに真逆さな筈の戦後民主主義社会でも国家権力を握り続け、兄弟で首相になったのである。1957年(昭和32)首相就任。60年国民的反対運動の中で新日米安保条約批准を強行。直後に総辞職。しかも、佐藤栄作は戦後史上唯一「指揮権発動」によって「造船疑獄」と呼ばれた汚職をもみ消し、「非核三原則」を標榜してノーベル平和賞まで貰ったのだが、その「非核三原則」のうちの「持ち込ませず」も嘘であったことが毎日新聞の記者によって暴露されたのだが、裁かれたのは、佐藤ではなく暴露した西山記者の方だった。(2014)(2013)

【2機・3介(ニキミスケ)】(ご参考)

東条英機や岸信介が、満州で活躍していたとき、満州を支配したのは、2機・3介(ニキミスケ)と呼ばれる人物たちであった。松岡、岸、鮎川を「昭和のサンスケ」とも言う。

- ・東条英機(1884～1948)(関東軍参謀長)
- ・星野直樹(1892～1978)(満州国総務長官)
- ・松岡洋右(1880～1946)(満鉄総裁)
- ・岸信介(1896～1987)(満州国産業部次長)
- ・鮎川義介(1880～1967)(日産財閥総帥)

★【東久邇稔彦(ひがしくになるひこ)(1887-1990)】

旧皇族、軍人。第2次大戦直後の首相。久邇宮朝彦親王の第9王子として京都で生まれる。陸軍士官学校卒業。1920年以来、フランスに7年間留学し、自由主義の気風を身につけた。陸軍の内部で皇道派と衝突、左遷された経験をもつ。敗戦直後の45年8月17日に最初の皇族内閣を組閣し、降伏文書調印、軍隊の復員・解体などの終戦処理にあたったが、占領軍との連絡調整に限界を感じ、組閣後2ヵ月で総辞職した。(2014)

【大問3】

(小問1)の正解、選択肢の用語解説

★★★【新古今和歌集(しんこきんわかしゅう)】

鎌倉初期の勅撰和歌集。八代集の第八。20巻。後鳥羽院の院宣により、源通具(みなもとのみちとも)・藤原有家・藤原定家・藤原家隆が撰し、元久2年(1205)成立。仮名序・真名序があり、歌数約2000首。代表歌人は西行・慈円・藤原良経・藤原俊成・藤原定家・など。歌風は新古今調といわれ、万葉調・古今調と並び称される。(2014)(2011)

★★★【藤原定家(ふじわらのていか)(1162～1241)】

平安末期・鎌倉初期の歌人・歌学者。俊成の子。京極中納言と称さる。法号、明静(みようじょう)。「新古今和歌集」(共撰)、「新勅撰和歌集」を撰した。華麗妖艶な歌風で新古今調を代表し、一時代を画した。歌論書「近代秀歌」「毎月抄」、撰集「小倉百人一首」、日記「明月記」、家集「拾遺愚草」など。また、「顚註密勘」など古典の校勘にも功績を残し、「松浦宮物語」の作者ともいわれる。(2014)(2011)

★【藤原家隆(ふじわらのいえたか)(かりゅう)(1158～1237)】

鎌倉初期の歌人。寂蓮の養子。従二位。壬生二品(みぶにほん)と呼ばれる。和歌を俊成に学び、抒情清艶な歌風で、定家とともに後鳥羽院歌壇の主要歌人。和歌所寄人(よりうど)で、「新古今和歌集」撰者の一人。(2014)(2011)

★★★【古今和歌集(こきんわかしゅう)】

醍醐天皇の詔により撰ばれた最初の勅撰和歌集。略称は《古今集》。20巻。古今とは〈いにしえ〉〈いま〉の歌の集の意と、後世の人々が、和歌が勅撰された延喜の時代をいにしえの和歌の聖代と仰ぎ見るであろう、の意を兼ねる。流布本では巻首に仮名序、巻尾に真名(まな)序を付し、歌数は1111首(重出歌1首を含む)。長歌5首、旋頭(せどう)歌4首を含むが、他はすべて短歌。分類は春、夏、秋、冬、賀、離別、羈旅(きりよ)、物名、恋、哀傷、雑、雑体(長歌、旋頭歌、俳諧)、大歌所御歌とする。(2014)(2011)(2006)

★【後撰和歌集(ごせんわかしゅう)】

略称《後撰集》。《古今和歌集》をつぐ平安時代第2の勅撰和歌集。20巻。951年(天曆5)村上天皇の宣旨により、藤原伊尹(これただ)を別当(責任者)に、清原元輔、大中臣能宣(よしのぶ)、源順(したごう)、紀時文、坂上望城(もちき)を撰者として宮中の梨壺(昭陽舎)で撰集を開始、数年後に成立したようだが、現存本はいずれも本文が乱れ序文もないので、はっきりしない。伝本によって違うが、1425首の本が多い。《古今集》に比べて贈答歌がいちじるしく多く、しか

も紀貫之・伊勢などの《古今集》時代の歌人のほかは、専門歌人の歌はとらずに、藤原実頼・同師輔などの権力者の女性とのやりとりを多く採歌するなど人事詠、日常詠が多いので、晴の歌(公的な歌)よりも褻(け)の歌(私的な歌)を重んじた歌集だといわれている。(2014)

★【拾遺和歌集(しゅういわかしゅう)】

《三代集》の一つとして第3番目の勅撰和歌集。《拾遺集》と略称する。撰者は明らかでないが、花山院(花山天皇)が藤原長能(ながよし)、源道済(みちなり)ら近臣の歌人たちの助力を得て撰集したものか。成立年時も明確でなく、1007年(寛弘4)までに成ったと推定され、花山院晩年の和歌愛好の産物らしい。平安時代では《拾遺集》より《拾遺抄》のほうが重視され流布していたために、両者の先後関係をめぐって古来論じられてきたが、《抄》の所収歌すべてを含み増補発展させて《集》が成ったとする考えが近時有力である。(2014)

★【三代集(さんだいしゅう)】(ご参考)

平安初期の三つの勅撰和歌集、《古今和歌集》《後撰和歌集》《拾遺和歌集》をいう。勅撰集の最初の3集として重んぜられ、編集その他、後の模範とされた。三代とは撰集を命じた醍醐・村上・花山天皇の時代の意。

★【後拾遺和歌集(ごしゅういわかしゅう)】

第四番目の勅撰和歌集。二〇巻。白河法皇下命、藤原通俊撰。1086年成立、翌年改訂。歌数約一一二〇首。仮名序を有す。女流歌人の歌が多く、また叙景歌に新しい方向が示されているが、この集に対する非難も多く、源経信の「難後拾遺抄」はその代表。八代集の一。後拾遺集。後拾遺。(2014)

(小問2)の正解、選択肢の用語解説

★★【風土記(ふどき)(713)】

奈良時代初めの713年、天皇により諸国に編纂(へんさん)が命じられた。各国別にまとめられた古代の地誌で、当時の各国の地名の由来、産物、伝承などが記されている。現存は、常陸、出雲、播磨、豊後、肥前の五つの風土記で、出雲のみが完全に残る。その他の国については、風土記からの引用が逸文として残るだけ。(2014)(2009)

【和名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)】

平安中期の漢和辞書。10巻本と20巻本とがある。源順(みなもとのしたごう)著。承平4年(934)ごろ成立。漢語を意義分類し、出典を記して意味と解説を付し、字音と和訓を示す。和名抄。倭名抄。(2014)

【峰相記(ほうそうき)】

「みねあいき」とも読む。1巻。正平3=貞和4(1348)年頃成立。南北朝時代の播磨国の地誌。播磨国峰相山鶏足寺に参詣した筆者と老僧との問答形式をとって、当時の仏教界の概略および播磨国内の寺社・郡郷田数、同国に関する故事、伝承などを記している。(2014)

【日本霊異記(にほんりょうい)】

説話集。三巻。景戒編。822年頃成立。因果応報の仏教思想に基づいて、雄略天皇から嵯峨天皇の頃までの説話を漢文で著す。各段末に付する訓釈は、平安時代の国語資料として重要。正称、日本国現報善悪霊異記。霊異記。(2014)(2007)

【東関紀行(とうかんきこう)】

鎌倉中期の紀行。1巻。作者は鴨長明・源光行・源親行などが擬せられたが未詳。仁治3年(1242)以後に成立。京都から鎌倉に下る旅と、鎌倉滞在中の見聞を、流麗な和漢混交文で記したもの。(2014)

(小問3)の正解、選択肢の用語解説

★★【井原西鶴(いはらさいかく)(1642～1693)】

江戸時代前期の俳人、浮世草子作者。寛永19年生まれ。大坂の富商の出。西山宗因の談林俳諧(はいかい)をまなび、延宝年間に天下一の速吟で知られた。天和(てんな)2年「好色一代男」を刊行、これが浮世草子のさきがけとなった。つづいて好色物「好色五人女」「好色一代女」、武家物「武道伝来記」、町人物「日本永代蔵(えいたいぐら)」「世間胸算用(むねさんよう)」などを雅俗折衷文で発表、文学史上に一時期を画した。(2014)(2013)(2011)

★★【近松門左衛門(ちかまつもんざえもん)(1653～1724)】

江戸中期の浄瑠璃・歌舞伎作者。越前の人。本名、杉森信盛。別号、巢林子(そうりんし)。坂田藤十郎のために脚本を書き、その名演技と相まって上方歌舞伎の全盛を招いた。また、竹本義太夫のために時代物・世話物の浄瑠璃を書き、義太夫節の確立に協力した。代表作「国性爺合戦(こくせんやかっせん)」「曾根崎心中」「心中天網島(しんじゅうてんのあみじま)」「女殺油地獄(おんなころしあぶらのじごく)」「傾城仏の原」など。(2013)(2012)(2011)(2008)

【戸田茂睡(とだもすい)(1629～1706)】

江戸前期の歌学者・歌人。駿河の人。名は恭光(やすみつ)。通称、茂右衛門。号、梨本(なしのもと)・隠家。岡崎藩本多氏に仕えたが、のち江戸浅草に隠棲。二条家の歌学を批判して用語の自由を主張。著「梨本集」「紫の一本」「僻言調(ひがごとしらべ)」など。(2014)

★【契沖(けいちゅう)(1640～1701)】

江戸時代前期の国学者。寛永17年生まれ。真言宗の僧。延宝6年大坂今里の妙法寺住職、晩年は大坂高津の円珠庵に隠棲(いんせい)した。下河辺長流(しもこうべちやうりゅう)の影響で古典を研究。徳川光圀(みつくに)の依頼で「万葉集」を注釈し、「万葉代匠記」をあらわす。また「和字正濫鈔(しょうらんしょう)」などで歴史的仮名遣いを提唱。実証的古典研究の方法を確立、国学興隆の基礎を築いた。(2014)(2013)

★★【松尾芭蕉(まつおばしょう)(1644～1694)】

江戸前期の俳人。伊賀の人。名は宗房。芭蕉は俳号。藤堂良忠(俳号、蟬吟)に仕えて俳諧を学び、京都で北村季吟に師事。のち、江戸に下り、深川の芭蕉庵に住み、談林風の俳諧を脱却して、蕉風を確立。各地を旅して発句や紀行文を残し、旅先の大坂で病没。その句の多くは「俳諧七部集」に収められている。紀行に「野ざらし紀行」「笈(おい)の小文」「奥の細道」「更科紀行」、日記に「嵯峨日記」など。(2014)(2011)(2009)(2007)

(小問4)の正解、選択肢の用語解説

★★★【新井白石(あらいはくせき)(1657～1725)】

江戸時代前期-中期の儒者。明暦3年2月10日生まれ。新井正済(まさなり)の長男。師木下順庵の推挙で、甲斐(かい)(山梨県)府中藩主徳川綱豊の侍講となる。宝永6年綱豊が6代将軍家宣(いえのぶ)となると、間部詮房(まなべあきふさ)とともに将軍を補佐し、通貨改良、貿易制限、司法改革などをすすめて幕政の改善につとめた。徳川吉宗が8代将軍になると、政治上の地位をうしない、晩年は著述に専念。享保(きやうほう)10年5月19日死去。69歳。江戸出身。名は君美(きんみ)。字(あざな)は在中。通称は勘解由。別号に紫陽など。著作に「折たく柴の記」「西洋紀聞」、編著に「藩翰譜(はんかんぷ)」など。(2014)(2011)(2010)(2007)

【山崎闇斎(やまざきあんさい)(1619～1682)】

江戸時代前期の儒者、神道家。元和(げんな)4年12月9日生まれ。はじめ僧。谷時中(じちゅう)にまなび朱子学にめざめる。正保(しょうほ)4年「關異(へきい)」をあらわし、仏教を異端とし朱子学信奉の立場をとる。寛文5年会津(あいづ)藩主保科(ほしな)正之の師となり、その縁で吉川惟足(これたり)から神道を伝授され、神儒統合の垂加神道を創始した。崎門学派の祖。天和(てんな)2年9月16日死去。65歳。京都出身。名は嘉。字(あざな)は敬義(もりよし)。通称は嘉右衛

門。別号に垂加。著作に「文会筆録」など。(2014) (2007)

★【浅見綱斎(あさみけいさい) (1652～1712)】

江戸時代前期-中期の儒者。慶安5年8月13日生まれ。山崎闇斎(あんさい)にまなび、崎門(きもん)三傑のひとりとされたが、神道説に反対し破門される。生涯仕官せず、京都でおしえた。その著「靖献遺言(せいけんいげん)」は幕末の尊王思想に影響をあたえた。正徳(しょうとく)元年12月1日死去。60歳。近江(おうみ)(滋賀県)出身。本姓は高島。名は順良、安正。通称は重次郎。著作に「忠孝類説」「大学講義」など。(2014)

★【山鹿素行(やまがそこう) (1622～1685)】

江戸時代前期の兵法家、儒者。元和(げんな)8年8月16日生まれ。林羅山に朱子学を、小幡景憲(おばた-かげのり)、北条氏長に武芸、兵学をまなぶ。「武教全書」などをあらわし山鹿流兵学を完成。寛文5年「聖教要録」で朱子学を批判し、播磨(はりま)(兵庫県)赤穂(あこう)藩浅野家預けとなる。10年後にゆるされ、江戸積徳堂でおしえた。貞享(じょうきょう)2年9月26日死去。64歳。陸奥(むつ)会津(福島県)出身。名は高興。字(あざな)は子敬。通称は甚五左衛門。著作に「配所残筆」「武家事紀」など。(2014)

★【熊沢蕃山(くまざわばんざん) (1619～1691)】

江戸前期の儒学者。山城の人。名は伯継。字(あざな)は了介(りょうかい)。別号、息游軒。中江藤樹に陽明学を学び、岡山藩主池田光政に仕えた。晩年、政治批判で幕府に疎まれ、幽囚中に病死。著「大学或問(わくもん)」「集義和書」「集義外書」「源氏外伝」など。(2014)

(小問5)の正解、選択肢の用語解説

★★【有島武郎(ありしまたけ) (1878－1923)】

大正時代の小説家。明治11年3月4日生まれ。有島武の長男。有島生馬、里見弴(とん)の兄。札幌農学校にまなび、キリスト教に入信。アメリカに留学し、ホイットマンなどの影響をうけた。棄教して明治43年「白樺」にくわわり、「カインの末裔」「生れ出づる悩み」「或る女」などを発表。社会運動への関心から北海道の農場を解放した。大正12年6月9日軽井沢で波多野秋子と心中。46歳。東京出身。(2014) (2011)

★【小林多喜二(こばやしきじ)】

1903(明治36)年、下川沿村(今の館市)に生まれる。4歳で家族と一緒に、伯父のいる北海道の小樽に移住。小樽高商(今の小樽商科大学)を卒業後、北海道拓殖銀行に入る。29年に「蟹工船」や「不在地主」を発表、この年、プロレタリア文学の執筆がもとで銀行を解雇された。30年に上京、作家活動を続ける。33年2月20日、特高警察に治安維持法違反の疑いで逮捕。築地署で拷問を受け、虐殺された。代表作「蟹工船」は近年、ワーキングプアと呼ばれる現代の労働者との類似性が若者らを中心に再び共感を集め、読者層が広がっている。(2014)

【横光利一(よこみつりいち) (1898～1947)】

大正～昭和時代の小説家。明治31年3月17日生まれ。大正13年川端康成らと「文芸時代」を創刊、新感覚派の旗手となる。のち心理主義に転じた。昭和10年純文学と通俗小説の融合をとねえた「純粹小説論」を発表。11年の渡欧をきっかけに長編「旅愁」にとりかかったが、昭和22年12月30日未完のまま死去。50歳。福島県出身。早大中退。本名は利一(としかず)。作品はほかに「日輪」「上海」「機械」など。(2014)

★★【川端康成(かわばたやすなり) (1899～1972)】

大正-昭和時代の小説家。明治32年6月14日生まれ。大正13年横光利一らと「文芸時代」を創刊して新感覚派運動をおこす。15年「伊豆の踊子」を発表、短編作家としてみとめられる。独自の美的世界を追求し、「雪国」「千羽鶴」「山の音」などを発表。36年文化勲章。43年 ノーベル文学賞。昭和47年4月16日自殺。72歳。大阪出身。東京帝大卒。【格言など】人間はみなに愛されているうちに消えるのが一番よい。(2014)

【徳永直(とくながすなお)(1899～1958)】

昭和時代の小説家。明治32年1月20日生まれ。博文館印刷所につとめ、後身の共同印刷で争議に参加し解雇される。昭和4年体験をもとに「太陽のない街」をかき、プロレタリア作家としてみとめられる。戦後は新日本文学会の創立に参加し、「妻よねむれ」などをのこした。昭和33年2月15日死去。59歳。熊本県出身。格言など：お前はもう安心して眠れ！ 子供のせなか、亭主のせなかで眠ってくれ！（「妻よねむれ」）（2014）

【海に生くる人々(うみにいくるひとびと)】

葉山嘉樹(はやまよしき)の長編小説。1926年刊。作者が23年名古屋刑務所収監中に完成。自分の体験に取材した作品で、室蘭、横浜間の石炭船を舞台に、さまざまな船員たちの生態を諧謔味を帯びた筆で描き分けながら、過酷な労働条件とそれへ反発する自然発生的なストライキ、そのささやかな勝利と弾圧による挫折までの過程を写している。（2014）

★【痴人の愛(ちじんのあい)】

谷崎潤一郎の小説。1924年(大正13)から翌25年にかけて、前半が《大阪朝日新聞》、後半が雑誌《女性》に連載された。同年刊。大正モダニズムの社会風俗と、作者独特のマゾヒズムの性心理とをたくみに織りなした作品である。一編の筋は、河合譲治という主人公が、町で見かけた西洋女性に似た体つきのナオミに入れあげ、自分の思いどおりの女にしようとして「教育」するが、かえって最後にはその悪女としての魅力にとらえられ、ナオミの不貞にも頭があがらなくなるという結末にいたる。（2014）

★【細雪(ささめゆき)】

谷崎潤一郎の長編小説。1943～48年作。36年から41年までの、大阪船場の格式ある旧家を舞台に、4人姉妹のそれぞれの命運をたどりながら、天災や戦争の影響で次第に変わってゆく生活のなかでなお続けられる花見、蛍狩り、月見など伝統的な風俗を描き、上方文化の洗練美を彷彿させる。（2014）

★【暗夜行路(あんやこうろ)】

志賀直哉の長編小説。大正10～昭和12年(1921～1937)まで断続的に発表。不義の子として生まれた時任謙作が、結婚後、妻の過失という不幸を背負いながら、心の調和と平安を見いだしていく過程を描く。（2014）（2011）

【大問4】

（小問1）の正解、選択肢の用語解説

【侍所(さむらいどころ)】

鎌倉幕府の役所の一。御家人統制のため、治承4年(1180)設置。長官を別当と称し、初め和田義盛が任ぜられ、のち北条氏が世襲。室町幕府の役所の一。御家人の統制のほか京中の市政、公武の所領、寺社領などのことを管掌。長官を所司と称し、山名・赤松・一色・京極の四氏が交替で就任。（2014）

【管領(かんれい)】

将軍を補佐し内外の政務を統轄する室町幕府の職名。最初、執事と称されていたが、正平17＝貞治1(1362)年斯波義将が任命されたときから管領となった。その後再び執事と呼ばれたこともあったが、3代将軍足利義満のときに管領職がおかれ、足利氏の一族、斯波、細川、畠山の3氏が交代で就任したのでこの3氏を三管領 といった。（2014）

【三管四職(さんかんしき)】(ご参考)

室町幕府の重職である管領(かんれい)と侍所頭人(さむらいどころとうにん)に補せられる家柄。管領には斯波、細川、畠山の3家が、侍所頭人には赤松、一色、山名、京極の4家が交代で補せられたのでこう呼ばれた。

【鎌倉府(かまくらふ)】

室町幕府が関東10ヵ国支配のために鎌倉に設けた政庁。鎌倉公方(くぼう)足利氏を頂点に、関東管領(かんれい)、

守護、奉公衆、奉行衆からなる。鎌倉公方は任国内の武士に対する軍事統率権や土地安堵権、諸寺社の住持職の補任権や吹挙権などを保持した。(2014)

【政所(まんどころ)】

平安時代中期以後、親王家、摂関家、公卿、有力社寺の家政機関。主として所領荘園の事務を司った。特に摂関家の政所は大規模で、多数の別当を配していた。源頼朝は建久2(1191)年2月大江広元を別当に、以下令(れい)、案主(あんじゅ)、知家事(ちけじ)の職制を定め、鎌倉幕府および一部の民事訴訟を管掌させた。(2014)

【問注所(もんちゅうじょ)】

鎌倉・室町両幕府の部局。名は訴訟の対決を意味する語〈問注〉に由来。1184年設置。初代執事は三善康信。鎌倉初期は訴訟一般を、のち訴訟受理とおもに金銭貸借などの民事裁判を管轄した。(2014)

(小問2)の正解、選択肢の用語解説

★★【壬申の乱(じんしんのらん)(672)】

壬申の年にあたる672年、天智天皇の弟の大海人皇子(おおあまのおうじ)と天皇の長子である大友皇子が、皇位継承をめぐる起こした内乱。大友皇子は敗北して自殺し、翌年、大海人皇子は即位して天武天皇となった。(2014)

★【白村江の戦い(はくそんこんのたたかい)(はくすきのえのたたかい)(663)】

天智天皇2年(663)白村江での、日本・百済(くだら)連合軍と唐・新羅(しらぎ)連合軍との戦い。日本は、唐・新羅軍に攻略された百済の救援のために軍を進めたが大敗し、百済は滅亡。日本は朝鮮半島進出を断念した。(2014)

【承和の変(じょうわのへん)承和9年(842)】

伴健岑(とものこわみね)・橘逸勢(たちばなのはやなり)らが謀反を企てたとして、二人が流罪となり、仁明天皇の皇太子恒貞親王が廃された事件。(2014)

【応天門の変(おうてんもんのへん)貞観8(866)】

大内裏八省院の正門応天門が炎上した事件をめぐる宮廷の政変。応天門の炎上は放火とされ、最初は伴善男の証言により、源信の仕業とみられていたが、藤原良房の工作により、源信は罰せられず、逆に伴善男が真犯人とわかり処罰された。(2014)(2008)

【安和の変(あんなのへん)安和2(969)】

冷泉天皇の宮廷に起きた政変。この結果、源高明が失脚して、藤原氏の独占的地位が確立した。当時、左大臣高明は、その女子が村上天皇に愛された皇子が平親王の妃となっていたので、その将来をおそれた藤原氏が、高明らが平親王を擁立して、皇太子守平親王(円融天皇)の廃立をたくらんでいると密告して高明とその一門を中央政界から追放した。(2014)

(小問3)の正解、選択肢の用語解説

★【封建制度(ほうけんせいど)】(ご参考)

- ・(中国)天子がその領土を諸侯に与え、さらに諸侯はそれを臣下に分与して、各自にその領内の政治を行わせる制度。中国で周代に行われた。「分封建国」(ぶんぽうけんこく、領地を分けて国を建てること)から封建と呼ばれる。
- ・(西洋、日本)中世社会の基本的な支配形態。封土の給与とその代償としての忠勤奉仕を基礎として成立する、国王・領主・家臣の間の主従関係に基づく統治制度。また、領主が生産者である農民を身分的に支配する社会経済制度。もとは、Feudalismの訳語として、近・現代になって、中国語の「封建制」という言葉を援用・転用したもの。

【得宗専制(とくそうせんせい)】(ご参考)

鎌倉幕府において執権を務める北条氏の惣領である得宗(とくそう)に幕府権力が集中して専制政治が行われたこと、

またその時期を指す。鎌倉幕府の歴史を3つに分けた場合、源氏将軍・執権政治に続く第3の時期にあたる。(2014)

【荘園公領制(しょうえんこうりょうせい)】(ご参考)

日本の中世における、荘園と公領(朝廷・国衙(こくが)・幕府などの領地)を土台とした、重層的な土地支配構造のことである。11世紀中後期から12世紀初期にかけて成立し、院政期を通じて発展し、鎌倉時代前後に最盛期を迎えた。その一方で、鎌倉時代には地頭による侵食を受け、室町時代には守護(守護大名)によって蚕食されるなど、武士の進出に伴って次第に解体への道を進み、戦国時代頃までにほぼ形骸化した。最終的には太閤検地で消滅する。

★【院政(いんせい)】

太上天皇(だいにじょうてんのう)(上皇、法皇)の執政を常態とする政治形態。律令政治が天皇と貴族の共同統治的官僚政治であり、摂関政治が上級官僚貴族の寡頭政治的色彩が強いのに対し、白河上皇の専制的な権勢のもとに定着した政治形態を、後世の史家が院政と名付けたのである。太上天皇とは、譲位により皇位を後継者に譲った、いわば譲位元の天皇に贈られる尊号。(2014)(2011)

(小問4)の正解、選択肢の用語解説

★★★<キリスト教の禁教から鎖国完成までの流れ>(ご参考)

江戸幕府は、当初、安土桃山時代から続く南蛮貿易について、その独占と管理に重点を置き、開国を維持する政策を採った。1604年(慶長9年)には、江戸幕府が初めて内外貿易船に朱印状を下付して朱印船貿易を始め、同年には糸割符制度も始めた。貿易関係は維持したものの、キリスト教に対する警戒は強まり、特に布教に力を入れるスペインなどのカトリック国を冷遇し、貿易に力を入れるオランダやイギリスなどの新教国を厚遇する措置をとった。

1609年(慶長14年)にオランダ、1613年(慶長18年)にはイギリスが、肥前国平戸(長崎県平戸市)に商館を置いて平戸貿易が始まると、その傾向は顕著になった。なお、スペイン人・ポルトガル人を南蛮人というのに対して、オランダ人は紅毛人と呼ばれ、後には広く西洋人一般を紅毛人と称した。

「鎖国」体制は、第2代将軍徳川秀忠の治世に始まり、第3代将軍徳川家光の治世(在職:1623～1651)に完成した。

1612年(慶長17年)幕領に禁教令

1616年(元和2年)明朝以外の船の入港を長崎・平戸に限定する。

1623年(元和9年)イギリス、業績不振のため平戸商館を閉鎖。

1624年(寛永元年)スペインとの国交を断絶、来航を禁止。

1628年(寛永5年)タイオワン事件の影響で、オランダとの交易が4年間途絶える。

1631年(寛永8年)奉書船制度の開始。朱印船に朱印状以外に老中の奉書が必要となった。

1633年(寛永10年)第1次鎖国令。奉書船以外の渡航を禁じ、海外に5年以上居留する日本人の帰国を禁じた。

1634年(寛永11年)第2次鎖国令。第1次鎖国令の再通達。長崎に出島の建設を開始。

1635年(寛永12年)第3次鎖国令。中国・オランダなど外国船の入港を長崎のみに限定。東南アジア方面への日本人の渡航及び日本人の帰国を禁じた。

1636年(寛永13年)第4次鎖国令。ポルトガル人を出島に移す。

1637年～1638年(寛永14年～15年)島原の乱。幕府に武器弾薬をオランダが援助。

1639年(寛永16年)第5次鎖国令。ポルトガル船の入港を禁止。それに先立ち幕府はポルトガルに代わりオランダが必需品を提供できるかを確認している。

【大問5】

(小問1)の正解、選択肢の用語解説

★【飛鳥文化(あすかぶんか) (592～645)】

日本史上、都が主として飛鳥地方にあった時代（崇峻(すしゅん)天皇5年(592年)から和銅3年(710年)の118年間にかけて飛鳥に宮・都が置かれていた時代）の文化。飛鳥文化の特質としては、(1) 中国六朝(りくちょう)文化を朝鮮半島を経由して摂取した文化、(2) 仏教を基調とした文化、(3) 都のおかれていた飛鳥地方を中心に畿内とその周辺の狭い地方に発達した文化、などがあげられる。(2014)

★【白鳳文化(はくほうぶんか) (645～710)】

白鳳時代の文化。唐との交通により、その影響を受けた仏教美術にすぐれた作品が多い。薬師寺の東塔や薬師三尊像、法隆寺金堂壁画などがその代表。また、国史の編纂が開始され、漢詩・和歌なども盛んとなった。(2014)

★【天平文化(てんぴょうぶんか) (710～794)】

奈良の都を中心に栄えた8世紀の貴族文化。聖武天皇のときが最盛期で、天平(729～749年)はその時期の年号に由来する。唐文化を介して遠く西域、インド、ペルシアなど世界各地の文化を受容し、新羅(しらぎ)や渤海(ぼっかい)との往来も行なわれた。(2014)

★【弘仁貞観文化(こうにんじょうがんぶんか) (810～877)】

主として美術史上用いられる名称。弘仁(810～824)、貞観(859～877)の平安時代前期を中心とした文化。美術史においては平安時代を2期に分け、後期を藤原文化とするのに対し、延暦13(794)年の平安遷都から遣唐使が廃止された寛平6(894)年までの約1世紀の平安時代前期の文化を呼ぶ。(2014)

★【国風文化(こくふうぶんか) (10世紀～12世紀)】

平安時代中期以降の日本文化。7世紀から9世紀にかけて、日本は唐を中心とする大陸文化の摂取に努めたが、10世紀頃から12世紀にかけては日本独特の文化を創造するようになる。平安時代前期までの文化はあらゆる面で唐の影響を強く受けて発達したので唐風文化と呼ばれ、これに対し中期から後期にかけては著しく日本化されたものとなったので国風文化と呼ばれる。仮名文学・寝殿造り・大和絵・浄土教芸術などが発達した。(菅原道真の建議により、894年に遣唐使が廃止された。白紙(894)に戻す、遣唐使と覚える。)(2014)

(小問2)の正解、選択肢の用語解説

★★【日明貿易(にちみんぼうえき) (1401～1557)】

室町時代に日本が中国の明朝と行った貿易。貿易の際に、倭寇と区別し正式な遣明使船である事が確認できるよう勘合(勘合符)を使用したことから勘合貿易(かんごうぼうえき)とも呼ばれる。

輸出品：硫黄、銅などの鉱物、扇子、刀剣、漆器や屏風ほか

輸入品：明銭(永楽通宝)、生糸、織物、書物ほか

この貿易において、日本の銅は国内よりも非常に高値で明に輸出された。この理由としては、中国の歴史上慢性的とも言えた銅の不足の他に、日本の銅には銀が少なからず含有しており、当時の日本にこれを抽出する技術はなかったが、明はそれを持っていたためである。結果、「銅にしては高いが銀にしては安い」価値で交易されていた。(2014)

【比較優位の法則】(ご参考)

比較優位の法則とは、一国の経済において、他国より比較優位を持つ財やサービスの生産に特化し、比較劣位にある財・サービスは輸入することによって互いに多くの財を消費できるという国際分業の利益を説明する理論。

(小問3)の正解、選択肢の用語解説

★【狩野山楽(かのうさんらく)(1559-1635)】

桃山時代の画家。浅井家の家臣木村長光の子で、名は光頼。豊臣秀吉に仕え、画才を認められて狩野永徳の弟子となり、師を助けて活躍、狩野姓を許される。永徳没後、狩野派の重鎮として秀頼に仕えた。代表作に、大覚寺宸殿・正寝殿の「牡丹図」「松鷹図」などの障壁画、「車争図屏風」「龍虎図屏風」、「鷺鳥図屏風」(西村家蔵)、京都正伝寺障壁画、狩野山雪との共同制作とされる妙心寺天球院障壁画(1631頃)などがある。(2014) (2011)

★【海北友松(かいほうゆうしょう)(1533-1615)】

桃山時代の画家。近江(おうみ)の人。名は紹益。武門に生れ、浅井家とともに滅亡した海北家の再興を志したが果たさず、画才により名をあげた。画技は狩野元信・狩野永徳に学んだとされるが、梁楷、玉潤なども研究、永徳の気宇の大きさと宋元画の精神性を止揚した独特の画境を開拓した。(2014) (2011)

【長谷川久蔵(はせがわきゅうぞう)(1593~1568)】

桃山時代の画家。長谷川等伯の長男。法名は道淳。画の清雅さは父に勝り、その才能は長谷川派中でも抜きん出ていたと伝えられるが、父に先んじて26歳で没した。文禄2(1593)年ごろ、等伯一派は、豊臣秀吉が愛児鶴松の菩提を弔うために建立した祥雲寺に、金碧の花木図障壁画(智積院蔵)を描いたが、そのうち最も優美で繊麗な「桜図」を久蔵の最後の仕事とする説が有力。ほかに「大原御幸図屏風」(東京国立博物館蔵)や「朝比奈草摺曳図絵馬」(清水寺蔵)が知られる。(2014)

★★【尾形光琳(おがたこうりん)(1658~1716)】

江戸中期の画家・工芸意匠家。京都の人。名は惟富、通称、市之丞。乾山の兄。初め狩野派を学び、のち光悦や宗達の作風の影響を受け、大胆で軽妙な画風により独自の造形美を展開、琳派を確立した。代表作に「燕子花(かきつばた)図屏風」「紅白梅図屏風」など。蒔絵(まきえ)にもすぐれた作品を残した。(2014) (2011) (2008)

★【住吉具慶(すみよしぐけい)(1631~1705)】

江戸時代前期の画家。寛永8年生まれ。住吉如慶(じょけい)の長男。京都出身。名は広純、広澄。通称は内記。大和絵住吉派の興隆の基礎を父とともに築いた。天和(てんな)3年江戸に移住し、幕府御用絵師をつとめた。元禄(げんろく)4年法眼(ほうげん)となる。作品に「洛中(らくちゅう)洛外(らくがい)図巻」「宇治拾遺物語絵巻」など。(2014) (2011) (2010)

★【唐獅子図屏風(からじしずびょうぶ)】

安土桃山時代の絵師、狩野永徳の絵画(16世紀後半)。雌雄の獅子を屏風画として描いたもの。永徳の代表作の一つとして知られる。六曲一双。紙本金地着色。三の丸尚蔵館所蔵。(2014) (2009)

★【松林図屏風(しょうりんずびょうぶ)】

桃山時代の画家長谷川等伯の代表作。6曲1双の屏風。国宝。東京国立博物館蔵。簡潔な構図をもって水墨一色で霧のなかから出現する松林を描く。(2014) (2011)

(小問4)の正解、選択肢の用語解説

【大阪紡績会社】

日本最初の大規模紡績会社で、東洋紡績株式会社の前身。綿製品輸入防遏(ぼうあつ)を企図する渋沢栄一の主唱により、華族を中心に政商、綿関係商人を加えて1882年5月に創立された(資本金25万円)。翌年、イギリス帰りの山辺丈夫を工務支配人とし、英国プラット・ブラザーズ社から最新型紡績機械を輸入し、蒸気機関による1万500錘、労働者300人弱という当時最大の規模で開業し、電灯を設備しての昼夜二交替制のフル操業で好成績をあげ、80年代後半の紡績ブームを呼び起こした。

後に、プラット社は、豊田自動織機に対して、同製作所製の「G型自動織機」の特許権譲渡契約として、当時の100万

円(現在の10億円)を支払った。豊田喜一郎(佐吉の長男)は、この100万円を資金として、自動車部となる自動車製作部門を豊田自動織機製作所内に設置することになった。世界のトヨタの誕生である。(2014)

★★★【中尊寺(ちゅうそんじ)(850)】

岩手県西磐井郡平泉町にある天台宗東北大本山の寺院。奥州三十三観音番外札所。山号は関山、本尊は阿弥陀如来。寺伝では円仁の開山とされる。実質的な開基は藤原清衡。奥州藤原氏三代ゆかりの寺として著名であり、平安時代の美術、工芸、建築の粋を集めた金色堂を始め、多くの文化財を有する。(2014)(2009)(2007)

★【毛越寺(もうつうじ)(850)】

岩手県西磐井郡平泉町にある天台宗の寺院。開山は円仁と伝える。現在の本尊は薬師如来、脇侍は日光菩薩・月光菩薩である。境内は「毛越寺境内 附 鎮守社跡」として国の特別史跡、庭園は「毛越寺庭園」として特別名勝に指定されている。(2014)

【大問6】

(小問1)の正解、選択肢の用語解説

★★★【蒙古襲来絵詞(もうこしゅうらいえことば)】

筆者不明の全2巻の絵巻物。竹崎季長絵詞とも。鎌倉時代後期の作で、肥後国の御家人竹崎季長が元寇における自分の戦いを描かせたものとされている。旧御物で、現在は宮内庁の所蔵となっており、東京都千代田区皇居東御苑内の三の丸尚蔵館に保管されている。(2014)

【真如堂縁起絵巻(しんにょどうえんぎえまき)】

京都市左京区にある天台宗寺院である真如堂(真正極楽寺)の本尊阿弥陀如来立像の由来および当堂にまつわる霊験を描く。奥書により、住持昭淳の発願で1524(大永4)に完成したことや、その制作に関わった絵師久国ほか人々の名がすべて知られる。応仁の乱に際して雑兵が堂舎に乱入している場面は有名。真如堂蔵。重文。(2014)

【後三年合戦絵巻(ごさんねんかっせんえまき)】

後三年の役(1083～87)を描いた絵巻。貞和3(1347)年の作。紙本着色、3巻、別に序文1巻。東京国立博物館蔵。詞は比叡山の僧玄慧(げんえ)の起草、絵は飛騨守巨勢惟久(こせこれひさ)筆で、詞書は仲直、持明院保脩、世尊寺行忠が各巻を分担書写している。(2014)

【平治物語絵巻(へいじものがたりえまき)】

平治の乱を題材とした絵巻。13世紀後半の作、紙本着色。ボストン美術館蔵の「三条殿夜討の巻」、静嘉堂文庫蔵の「信西の巻」、東京国立博物館蔵の「六波羅行幸の巻」(国宝)の3巻と、諸所分蔵の「六波羅合戦の巻」残欠14図が現存する。(2014)

★【一遍上人絵伝(いっぺんしょうにんえでん)】

時宗の開祖一遍の伝記を記した絵巻。2系統あり、1つは聖戒本で12巻より成る。一遍の近親で法弟でもあった聖戒が詞を書いた国宝、歓喜光寺蔵『一遍上人絵伝(一遍聖絵)』はこれに属する。絵は法眼円伊筆と奥書にあるが、彼については不明な点が多い。(2014)

★【文永の役(ぶんえいのえき)】(1274)

文永11年(1274)中国元(げん)の大軍が来攻したときの戦い。元軍は対馬(つしま)・壱岐(いき)、次いで博多付近に上陸したが、暴風雨によって引き上げた。元寇(げんこう)。(2014)

【応永の外寇(おうえいのがいこう)】(1419)

応永26(1419)年6月、李氏朝鮮による対馬攻撃事件。倭寇の侵略に悩まされ続けた朝鮮は、その根拠地覆滅の目的をもって、兵船227隻、1万7000の大軍を動員して対馬を襲った。10日余で撤退したが、日本では明軍襲来の噂が

飛び騒然となった。(2014)

【三浦の乱(さんぽのらん)(1510)】

中宗5(1510)年、朝鮮の三浦(薺浦<せいぼ>、富山浦<ふざんぼ>、塩浦<えんぼ>)に起った日本人居留民の暴動事件。庚午の倭変ともいう。これより前、朝鮮王朝(李朝)は海防を強化して倭寇にそなえ、懷柔や武力討伐などの倭寇壊滅策をとる一方、日本に使臣を送り倭寇禁圧を要請した。(2014)

【寧波の乱(にんぱーのらん)(1523)】

大永3(1523)年、細川氏と大内氏の遣明船の入明に際し、ニンポー(寧波)で引起された武闘事件。細川氏と大内氏は日明貿易の利益をめぐって鋭く対立し、これに大内氏と結ぶ博多商人と細川氏につながる堺商人の利害の対立がからんでいた。(2014)

【元弘の変(げんこうのへん)(1331)】

元弘元年(1331)、後醍醐天皇が企てた鎌倉幕府討伐の計画。未然に露見し、天皇は笠置(かさぎ)寺や有王山中に逃れたが、翌年捕らえられ、隠岐(おき)に流された。幕府滅亡の直接の動因となった。(2014)

(小問2)の正解、選択肢の用語解説

【荒神谷遺跡(こうじんだにいせき)】

島根県北東部、出雲市に所在する弥生時代の青銅器埋納遺跡。1984、1985年の島根県教育委員会の調査で、丘陵斜面の3地点より整然と一括埋納した状態で銅剣358、銅鐸(どうたく)6、銅鉾16が出土した。(2014)

★【吉野ヶ里遺跡(よしのがりいせき)】

佐賀県東部、吉野ヶ里丘陵周辺に所在する弥生時代主体の環濠集落の大遺跡群。吉野ヶ里町と神埼市にまたがる。1986年以来、佐賀県教育委員会が発掘調査している。遺跡群には弥生初頭の貯蔵穴群や、弥生前期の集落も含まれるが、集落規模は弥生中期～後期にかけて拡大したと考えられる。(2014)

【原の辻遺跡(はらのつじいせき)】

長崎県壱岐市東部の芦辺から石田にまたがる弥生時代中～後期の遺跡。特に弥生時代後期前半に属する原ノ辻上層式土器とともに発見された鉄器類(鍬先、鎌、槍鉋、刀子、銚)は弥生時代の鉄器の実例として貴重。(2014)

【大塚遺跡(おおつかいせき)】

横浜市港北区中川町、牛久保町にまたがり、早淵川中流左岸の標高約50mの台地上に位置した弥生時代中期の集落跡。港北ニュータウンの開発計画にともなって1973年から3ヵ年の歳月を要して全域を発掘した。集落は、断面がV字形をした溝でとり囲まれ、その平面規模は長軸200m、最大幅130mの変形楕円形で、なかに堅穴住居跡が97基発見されて環濠集落の全容が明らかとなった。住居跡の基本的な形は隅丸長方形か小判形で、支柱4本からなるものである。(2014)

★★【登呂遺跡(とろいせき)】

静岡県登呂にある弥生時代後期の遺跡。1943～50年の調査で、住居址、高床倉庫址、水田址とともに、多数の木器類が発見された。弥生時代の標準的な農耕村落の具体相を示す遺跡として重要。特に矢板による畦畔によって仕切られた水田址は、中央の水路の両側にあり、当時の灌漑技術の高さを示している。(2014)

(小問3)の正解、選択肢の用語解説

★★【空也上人像(くうやしょうにんぞう)】

空也の彫像は、六波羅蜜寺が所蔵する立像(運慶の四男 康勝の作)が、最も有名である。他には、月輪寺(京都市

右京区)所蔵、浄土寺(松山市)所蔵、莊嚴寺(近江八幡市)所蔵が代表的である。いずれも鎌倉時代の作で、国指定の重要文化財である。彫像の造形は、特徴的である。一様に首から鉦(かね)を下げ、鉦を叩くための撞木(しゅもく)と鹿の角のついた杖をもち、わらじ履きで歩く姿を表す。6体の阿弥陀仏の小像を針金で繋ぎ、開いた口元から吐き出すように取り付けられている。この6体の阿弥陀像は「南無阿弥陀仏」の6字を象徴し、念仏を唱えるさまを視覚的に表現している。後世に作られた空也の彫像・絵画は、全てこのような造形・図像をとる。(2014)

【僧形八幡神像(そうぎょうはちまんしんぞう)】

平安時代に盛んであった神仏習合の思想である本地垂迹説により、八幡神が剃髪し、袈裟を着け、手に錫杖をもち蓮華座にすわる僧の姿として表現されたもの。薬師寺蔵の同神像 (9世紀末)、および東大寺蔵の快慶作坐像(1201)が代表作例。(2014)(2009)

★★【蘭溪道隆像(らんけいどうりゅうぞう)】

文永8年(1271年)、朗然居士(ろうねんこじ)(北条時宗の居士名か?)のために描かれたもの。なお、同じく蘭溪道隆賛の「達磨図」(向嶽寺蔵)も朗然居士に与えられている。建長寺には他に、「蘭溪道隆経行図」(重文)がある。経行とは座禅中に足の疲れと睡魔を払うため、静かに歩いて精神を調える所作のこと。(2014)

★【平清盛坐像(たいらのきよもりざぞう)】

京都市東山区の六波羅蜜寺蔵。重要文化財。(2014)

★【興福寺(こうふくじ)(710)】

奈良県奈良市登大路町(のぼりおおじちょう)にある、南都六宗の一つ、法相宗の大本山の寺院である。南都七大寺の一つに数えられる。藤原氏の祖・藤原鎌足とその子息・藤原不比等ゆかりの寺院で、藤原氏の氏寺であり、古代から中世にかけて強大な勢力を誇った。南円堂は西国三十三所第9番札所である。「古都奈良の文化財」の一部として世界遺産に登録されている。(2014)(2013)

★【建長寺(けんちょうじ)(1253)】

神奈川県鎌倉市山ノ内にある禅宗の寺院で、臨済宗建長寺派の大本山である。山号を巨福山(こふくさん)と称し、寺号は詳しくは建長興国禅寺(けんちょうこうこくぜんじ)という。

鎌倉時代の建長5年(1253年)の創建で、本尊は地藏菩薩、開基(創立者)は鎌倉幕府第5代執権北条時頼、開山(初代住職)は南宋の禅僧蘭溪道隆で、二世は同じく南宋の兀庵普寧である。鎌倉五山の第一位。境内は「建長寺境内」として国の史跡に指定されている。(2014)(2007)

★【薬師寺(680)】

奈良県奈良市西ノ京町に所在する寺院であり、興福寺とともに法相宗の大本山である。南都七大寺のひとつに数えられる。本尊は薬師如来、開基は天武天皇、道昭、義淵である。1998年に古都奈良の文化財の一部として、世界遺産に登録されている。現・管主は山田法胤である。(2014)(2013)(2011)

★【高山寺(774)】

京都市右京区梅ヶ畑梅尾(とがのお)町にある寺院。梅尾は京都市街北西の山中に位置する。高山寺は山号を梅尾山と称し、宗派は真言宗系の単立である。創建は奈良時代と伝えるが、実質的な開基は、鎌倉時代の明恵である。(2014)(2012)

♪～京都 梅尾(とがのお) 高山寺～♪(一青窈)

https://www.youtube.com/my_videos?o=U&spfreload=10

★【六波羅蜜寺(951)】

踊り念仏で知られる市聖(いちひじり)空也(くうや)が平安時代中期の天暦5年(951年)に造立した十一面観音を本尊とする道場に由来し、当初西光寺と称した。空也は疫病の蔓延(まんえん)する当時の京都で、この観音像を車に乗せて引きながら歩き、念仏を唱え、病人に茶をふるまって多くの人を救ったという。国宝の本尊像以外にも、空也上人像、伝・平清盛像、運慶の真作と見なされる地藏菩薩坐像など日本彫刻史上著名な仏像、肖像を有する。(2014)

(小問4)の正解、選択肢の用語解説

【菱田春草(ひしだしゅんそう)(1874～1911)】

明治時代の日本画家。明治7年9月21日生まれ。結城(ゆうき)正明、岡倉天心、橋本雅邦(がほう)らにまなぶ。のち天心らの日本美術院創立に参加。また横山大観らと朦朧(もうろう)体といわれる没線(もつせん)主彩描法をこころみるなど、日本画の革新につとめた。明治44年9月16日死去。38歳。長野県出身。東京美術学校(現東京芸大)卒。本名は三男治(みおじ)。代表作に「落葉」「黒き猫」(ともに重文)など。(2014)

★★【岡倉天心(おかくらてんしん)(1863～1913)】

美術行政家・思想家。横浜生。本名は覚三。東大卒後、文部省に入り、美術教育・調査保存にあたる。明治17年フェノロサと鑑画会を結成、新日本画の開拓に努め、美術調査員としてともに渡欧。明治23年東美校校長となり、帝国博物館理事等を兼任、この間美術誌「国華」を創刊。また日本青年絵画協会及びその後身である日本絵画協会を組織した。のち公職を退き、橋本雅邦・横山大観・菱田春草らと日本美術院を結成した。明治37年渡米しボストン美術館東洋部長に就任。また文展審査員・国宝保存会委員もつとめ、明治期美術の指導者としてばかりでなく、すぐれた国際感覚のうちに、日本及び東洋の文化の優秀性を内外に訴えた。著に『茶の本』『東洋の理想』『日本の覚醒』がある。(2014)(2010)(2006)

★【横山大観(よこやまたいかん)(1868～1958)】

日本画家。茨城の生まれ。本名、秀麿。岡倉天心・橋本雅邦に師事し、日本美術院の創立に参加。天心没後は再興日本美術院を主宰。朦朧体(もうろうたい)とよばれる画風を試みるなど、日本画の近代化に大きな足跡を残した。また、水墨画でも新境地を開拓。文化勲章受章。(2014)

【竹内栖鳳(たけうちせいほう)(1864～1942)】

戦前の日本画家。近代日本画の先駆者で、画歴は半世紀に及び、戦前の京都画壇を代表する大家である。帝室技芸員。第1回文化勲章受章者。本名は恒吉。最初は棲鳳と号した。霞中庵の号もある。動物を描けば、その匂いまで描くといわれた達人であった。(2014)

【池田遙邨(いけだようそん)(1895～1988)】

倉敷市出身の日本画家。本名は池田昇一。(2014)

【西村五雲(にしむらごうん)(1877～1938)】

京都出身の日本画家。本名・源次郎。日本画家の西村卓三は息子(次男)。動物の生態を生き生きと捉える絵を描き、平和でのどかな動物画を得意としていた。(2014)

(小問5)の正解、選択肢の用語解説

★【東京国立博物館(1872)】

日本と東洋の文化財(美術品、考古遺物など)の収集保管、展示公開、調査研究、普及などを目的として独立行政法人国立文化財機構が運営する博物館である。1872年(明治5年)に創設された、日本最古の博物館である。東京都台東区の上野恩賜公園内にある。本館、表慶館、東洋館、平成館、法隆寺宝物館の5つの展示館と資料館その他の

施設からなる。2014年3月31日時点で、国宝87件、重要文化財633件を含む収蔵品の総数は115、653件で、これとは別に、国宝53件、重要文化財245件を含む総数2、519件の寄託品を収蔵している。このうち陳列総件数は約7、500件である。2013年度の来館者数は約132万人。(2014)

【国立科学博物館(1877)】

「自然史に関する科学その他の自然科学及びその応用に関する調査及び研究並びにこれらに関する資料の収集、保管(育成を含む)及び公衆への供覧等を行うことにより、自然科学及び社会教育の振興を図る」ことを目的とした博物館である(独立行政法人国立科学博物館法:第3条)。当館は博物館法における博物館ではなく、博物館相当施設である。これは博物館法が国の施設を範疇としていないためである。全国の博物館の指導的な立場としての事業を数多く行っている。独立行政法人化によって国から切り離されたが、その後も名称に「国立」を冠している。これは海外との関わりにおいて国の機関であることを示す必要があるために認められた特例である。(2014)

【奈良国立博物館(1895)】

奈良県奈良市登大路町にある、独立行政法人国立文化財機構が運営する博物館である。仏教美術を中心とした文化財の収集、保管、研究、展示を行うとともに、講演会や出版活動などを通じた普及活動を行うことを主たる活動内容としている。展示施設は本館、本館附属棟、東新館、西新館、地下回廊がある。このうち本館は、赤坂離宮(迎賓館)などを手がけた宮廷建築家・片山東熊の設計により1894年(明治27年)竣工したもので、明治期の洋風建築の代表例として国の重要文化財に指定されている。展示品は館蔵品のほか、奈良県下を中心とした社寺や個人からの寄託品も多い。毎年秋に実施される「正倉院展」の会場でもある。(2014)

【京都国立博物館(1897)】

独立行政法人国立文化財機構が運営する博物館。1897年(明治30年)5月に開館した。主に平安時代から江戸時代にかけての京都の文化を中心とした文化財を、収集・保管・展示するとともに、文化財に関する研究、普及活動を行っている。平常展示のほかには特別展が1年に2～4回行われている。(2014)

【国立民族学博物館(1977)】

人間文化研究機構を構成する大学共同利用機関である。民族学・文化人類学を中心とした研究・展示を行っている、博物館を持った研究所である。略称は民博(みんぱく)。大阪府吹田市の万博記念公園にある。現在、総合研究大学院大学の文化科学研究科も設置されている。(2014)

★★【ジョサイア・コンドル(1852～1920)】

イギリスのロンドン出身の建築家。お雇い外国人として来日し、政府関連の建物の設計を手がけた。また工部大学校(現・東京大学工学部建築学科)の教授として辰野金吾ら、創成期の日本人建築家を育成し、明治以後の日本建築界の基礎を築いた。のちに民間で建築設計事務所を開設し、財界関係者らの邸宅を数多く設計した。日本女性を妻とし、河鍋曉斎に師事して日本画を学び、日本舞踊、華道、落語といった日本文化にも親しみ、趣味に生きた人でもあった。(2014)(2010)(2006)

★★【フェノロサ(1908～1853)】

アメリカの東洋美術史学者。マサチューセッツ州セーラム生まれ。ハーバード大学で哲学を学び、1874年首席で卒業。76年大学院修了後、一時、ボストン美術館付属の絵画学校で油絵も学んだ。明治11(1878)年エドワード・モース(大森貝塚を発掘)の推薦でお雇い外国人教師として来日、東京大学で政治学、哲学、理財学を講義する。来日後まもなくから日本美術の収集と研究を始め、狩野友信、狩野永恵に鑑定法を学ぶ。フェノロサの鑑定力は人々に大きな驚きを与えたようであり、のちに永恵から狩野永探理信の名を受けている。一方、日本美術の復興を唱え同15年竜池会で行った講演(「美術真説」)は、美術界に大きな影響を与えた。17年には自ら鑑画会を結成、狩野芳崖、橋本雅邦らと共に、新日本画の創造を図った。これらの作品は、フェノロサ自身の収集によって現在ボストン美術館、フィラデルフ

イタリア美術館、フリーア美術館などに収蔵されている。17 年図画調査会委員となって以降、美術教育制度の確立に尽力し、20 年岡倉天心とともに東京美術学校(東京芸大)を設立(22 年開校)した。(2014) (2013) (2011) (2010) (2006)

【ラゲーザ(1841～1927)】

明治期に来日し、日本に近代洋風彫刻を紹介、指導したイタリア人彫刻家。お雇い教師。シチリア島パレルモ市近郊に生まれ、パレルモ塑造学校に学んだ。1872年、全イタリア美術展に「装飾暖炉」を出品して最高賞を受け、世に認められる。明治9(1876)年、日本政府の依頼によりイタリア政府が行った選抜を経て、工部美術学校彫刻科教師として来日。油土や石膏などの新素材と、写実を重んずる西洋風の彫刻を日本に伝えた。この間、「日本の俳優」(市川団十郎、東京芸大蔵)など日本人をモデルにしたブロンズ像を制作。1884年、のちに妻となる清原玉とその姉夫妻を伴って帰国。1886年パレルモに日本の工芸をも教授する工芸学校を創立してその校長となる一方、パレルモの公園に立つ「ガリバルディ騎馬像」など、肖像を中心に多くの作品を残した。明治16年の工部美術学校廃止以後、32年に東京美術学校(東京芸大)で洋風彫刻を教えるようになるまで、日本の洋風彫刻には正式な教育の場がなかったが、その命脈は、ラゲーザの親身の指導を慕った弟子たちによって保たれた。(2014) (2010)

【キヨソネ(1832～1898)】

イタリアの銅版画家。1875年(明治8)日本政府に招聘(しょうへい)されて来日、大蔵省紙幣寮で各種紙幣・郵便切手などを製作。日本における印刷術の基礎づくりに貢献。明治天皇・西郷隆盛・大久保利通などの肖像もかいた。(2014) (2013)

【フォンタネージ(1818～1882)】

イタリアの画家。1832年レッジョの市立美術学校に入学。1847年第1次イタリア独立戦争に参加し、除隊後ジュネーブに住む。しばしばヨーロッパ各地を旅行して新しい絵画思潮に触れたが、ことに 1855年のフランス旅行で発見したバルビゾン派の自然描写と、1865～66年のロンドン滞在中に見たターナーとコンスタブルの光の表現に強い影響を受け、光の微妙な効果をとらえた自然描写のうちに、繊細な詩情を漂わせる独特の画風を確立。明治9年(1876)来日、工部美術学校教授となり、浅井忠(あさいちゅう)・小山正太郎などを指導。(2014) (2013)

2006年～2014年に、＜正解、選択肢＞として出題された事項

【大問1の地図上の場所を問う問題】

＜正解として出たもの＞

★大宰府(福岡県)(2014)(2009)(2011)

★首里城(沖縄県)(2014)(2006)

彦根城(滋賀県)(2014)

★八幡製鉄所(1901年)(福岡県)(2014)(2012)
(2006)

日本万博会場(1970年)(大阪府)(2014)

加賀一向宗(蓮如)(石川県)(2013)

★多賀城(宮城県)(2013)(2006)

屋久島(シドッチ)(鹿児島県)(2013)(2011)

★根室(ラクスマン)(北海道)(2013)

三池炭鉱(福岡県)(2013)

今井(浄土真宗)(奈良県)(2012)

蝦夷地交易(十三湊)(とさみなと)(青森県)
(2012)

★角倉了以(京都市)(2012)

石川島(松平定信)(2012)

★富岡製糸場(群馬県)(2012)

藤原京(奈良県)(2011)

★壇ノ浦(源平最後の戦い)(山口県)(2011)

★平戸(ケンペル)(長崎県)(2011)

★函館五稜郭(榎本武揚)(北海道)(2011)

★佐賀の乱(江藤新平)(佐賀県)(2011)

★隠岐の島(1221年、承久の乱、後鳥羽上皇)(島
根県)(2010)

★志賀島(金印)(福岡県)(2010)

★大分県(ウィリアム・アダムズ)(リーフデ号)(三
浦按針)(2010)

★長崎(レザノフ)(2014)(2010)

★下田(ハリス・日米和親条約＝神奈川条約)
(2010)

★原城(島原の乱)(長崎県)(2009)

浦賀(モリソン号事件)(神奈川県)(2009)

★坂下門外の変(安藤信正)(東京都)(2009)

★池田屋事件(京都市)(2009)

大津事件(滋賀県)(2009)

★有馬晴信(肥前＝佐賀県)(2008)

清浄光寺(時宗の総本山)(藤沢・神奈川県)
(2008)

野中兼山(土佐藩＝高知県)(2008)

★萩の乱(前原一誠)(山口県)(2008)

松川事件(福島県)(2008)

稲荷山古墳(埼玉県)(2007)

★鳴滝塾(シーボルト)(長崎県)(2013)(2011)
(2007)

★永平寺(曹洞宗の本山)(福井県)(2007)

米騒動(富山県)(2007)

★横浜(日米修好通商条約)(神奈川県)(2007)

大徳寺(禅寺)(一休宗純)(京都府)(2006)

品川(東海道の宿場)(東京都)(2006)

★蓮如

蓮如は、親鸞が創始した浄土真宗を小さな宗派から日本の代表的な宗派にまで広めたことで知られていますが、その成功の理由には彼の卓抜した組織を作り上げる能力を揚げることができます。浄土真宗開祖法然の一番門徒であった親鸞が、鎌倉時代に浄土真宗を開いてからおよそ250年後、42歳で本願寺の8代目法主(ほつす)となった蓮如は、文明3年(1471)に、加賀と越前の境界にある吉崎に布教の為の根拠地として、「吉崎御坊」という寺を建立しました。この時から北陸の本願寺派の真宗教団は繁栄の一路を辿りました。蓮如の教えは、「仏教は人々を差別しない。阿弥陀如来を信ずる人は、みな平等に救われる。」と説き、「同朋精神」を強調し、また職業にも関係なく、「南無阿弥陀仏」を唱えれば、仏の慈悲により現在や未来が

明るくなると説いた。この教えは、わかりやすく、在地の有力者である土豪は勿論、今まで恵まれない生活をしてきた農民や手工業者、行商人にとってはありがたい教えであり、急速に広がりました。(2013) (2010)

★多賀城

大和朝廷が蝦夷を制圧するため、軍事的拠点として蝦夷との境界となっていた松島丘陵の南東部分である塩釜丘陵上に設置した。(2014) (2013) (2006) (2006)

★角倉了以(すみのくらりょうい) (1554～1614)

戦国期の京都の豪商。朱印船貿易の開始とともに安南国との貿易を行い、山城(京都)の大堰川、高瀬川を私財を投じて開削した。また幕命により富士川、天竜川等の開削を行った。地元京都では商人と言うより琵琶湖疏水の設計者である田辺朔郎と共に「水運の父」として有名である。(2012)

★ケンペル(1651～1716)

ドイツ人の医師、博物学者。ヨーロッパにおいて日本を初めて体系的に記述した『日本誌』の原著者。(2011)

【大問1の地図上の場所を問う問題】

＜選択肢として出たもの＞

江田船山古墳(2007)

稲山古墳(2007)

★秋田城(2014) (2013) (2006)

★多賀城(2014) (2013) (2006) (2006)

★胆沢城(2014) (2013) (2006)

★志波城(2013) (2006)

徳丹城(2013)

摂津職(2014)

水城(2014)

二条城(201)

大野城(2006)

★首里城(2014) (2006)

勝連城(2014) (2006)

今帰仁城(2014) (2006)

座喜美城(2014) (2006)

松前城(2006)

花沢館(2011)

★法然(2013) (2006)

★親鸞(2013) (2011) (2010)

玄恵(2013)

★一遍(2013) (2011) (2010)

★ヴァリニャーニ(2013) (2011) (2008)

★シーボルト(2013) (2011) (2007)

★フロイス(2013) (2006)

★シドッチ(2013) (2011)

★フェノロサ(2006) (2010) (2011) (2013) (2014)

フルベッキ(2013)

クロバトキン(2010)

ビッドル(2014) (2011)

グローウニン(2010)

ケンペル(2011)

ヴィッテ(2010)

ラスクマン(2010) (2013)

レザノフ(2014) (2010)

★サン＝フェリペ号(事件) (2010) (2009)

★フェートン号(事件) (2010) (2009)

ポーハタン号(2010)

ミズーリ号(2010)

アロー号事件(2009)

ノルマントン号事件(2009)

モリソン号事件(2009)

★日米和親条約(1854年) (2010)

★日米修好通商条約(1858年) (2010)

日米通商航海条約(1894年) (2010)

琉米修好条約(1954年) (2010)

日米安全保障条約(1951年) (2010)

高田屋嘉兵衛(2013)

茶屋四郎次郎(2013)

淀屋辰五郎(2013)
饅頭屋宗二(2013)
田沼意次(2012)
水野忠邦(2012)
柳沢吉保(2012)
小石川養成所(2012)
三田育穂場(2012)
★八幡製鉄所(2014) (2012) (2006)
横須賀造船所(2012)
三池炭鉱(2006)
★富岡製糸場(2006)
長崎造船所(2006)
東洋拓殖会社(2006)
長岡京(2011)
平城京(2011)
大津宮(2011)
飛鳥浄御原宮(2011)
屋島(2011)
宇治川(2011)
富士川(2011)
一の谷(2011)
★聚楽第(2011)
弾正台(2011)
★鳥羽伏見の戦い(戊辰戦争の緒戦)(2011)
大塩の乱(大塩平八郎)(2011) (2009)
★禁門の変(=蛤御門の変)(久坂玄瑞)(2011)
(2009)
★萩の乱(前原一誠)(2011) (2008)
★佐賀の乱(江藤新平)(2011) (2009) (2008)
★西南の役(2008)
秋月の乱(2008)
神風連の乱(2008)
生田万の乱(2009)
★島原の乱(2009)
由井正雪の乱(2009)
生野の変(2009)
★桜田門外の変(大老井伊直弼)(2009)
★坂下門外の変(老中安藤信正)(2009)
八月十八日の変(2009)

★池田屋事件(2009)
飯田事件(2009)
寺田屋事件(2009)
東海寺事件(2009)
福島事件(2009)
大津事件(2009)
下山事件(2008)
松川事件(2008)
三鷹事件(2008)
砂川事件(2008)
横浜事件事件(2008)
日比谷焼打ち事件(2007)
血税一揆(2007)
秩父事件(2007)
村方騒動(2007)
高倉上皇(2010)
後白河上皇(2010)
★平戸(2010)
屋久島(2010)
伊達政宗(2008)
★黒田如水(2008)
★小西行長(2008)
★有馬晴信(2008)
南禅寺(2008)
相国寺(2008)
寛永寺(2008)
天龍寺(2008)
久遠寺(2007)
永平寺(2007) (2006)
★円覚寺(2007)
★建仁寺(2007) (2006)
★建長寺(2014) (2007)
総持寺(2006)
本門寺(2006)
大徳寺(2006)
★藤原惺窩(近世儒学の祖)(2008)
★林羅山(江戸時代初期の朱子学派儒学者。林家の祖。)(2008)
★鳴滝塾(シーボルト)(2013) (2011) (2007)

★松下村塾(吉田松陰)(2007)

古義堂(伊藤仁斎)(2007)

★適塾(尾形洪庵)(2007)

・聚楽第(ご参考)

安土桃山時代、山城国京都の「内野(うちの)」(平安京の大内裏跡、現在の京都府京都市上京区)に豊臣秀吉が建てた政庁兼邸宅。1588年5月9日(旧暦天正16年4月14日)には後陽成天皇の行幸を迎えてこれを饗応している。また天正少年使節や徳川家康の謁見もここで行われた。竣工後8年で取り壊されたため、不明な点が多い。(2011)

・日宋貿易(ご参考)

日本と中国の宋朝の間で行われた貿易である。10世紀から13世紀にかけて行われ、日本の時代区分では平安時代の中期から鎌倉時代の中期にあたる。中国の唐朝に対して日本が派遣した遣唐使が停止(894年)されて以来の日中交渉である。(2006)

・勘合貿易(ご参考)

室町時代に日本が中国の明朝に行った貿易。貿易の際に、倭寇と区別し正式な遣明使船である事が確認できるよう勘合(勘合符)を使用したことから勘合貿易(かんごうぼうえき)とも呼ばれる。(2013)

・日朝貿易(ご参考)

李成桂は朝鮮建国に伴い、倭寇禁圧を日本に要求、当時南北朝を合一(朝鮮王朝の成立と同じ1392年)させ、統一権力を握った室町幕府の足利義満もそれに応えたので、倭寇(前期倭寇)の活動は急速にやんだ。こうして14世紀末から約1世紀間、日朝貿易が展開された。日本側では対馬の宗氏が幕府に代わってその統制にあたった。

・南蛮貿易(ご参考)

540年代から1世紀にわたって日本人と南蛮人との間で行われた貿易。天文 12 (1543) 年ポルトガル人の種子島漂着が南蛮貿易の端緒となった。当初は平戸、横瀬浦、福田、口の津など北九州諸港にポルトガル船が来航したが、元亀2(71)年長崎が開かれ、領主大村純忠がこれをイエズス会に寄進して以来、ポルトガル船はこの地に連年入港するようになった。

・朱印船貿易(ご参考)

16世紀末から17世紀初頭にかけて日本の支配者の朱印状(海外渡航許可証)を得て、海外交易を行った船を言う。朱印状を携帯する日本船は、当時日本と外交関係があったポルトガル、オランダ船や東南アジア諸国の支配者の保護を受けることができた。

【大問2の文化に関する問題】

＜正解として出たもの＞

★重源(2014)(2006)

平忠盛(2013)

★ボアソナード(2012)(2011)

吉田兼俱(2014)

★フェノロサ(2006)(2010)

(2008)

★坂之上田村麻呂(2014)

(2011)(2013)(2014)

吉野作造(2012)

★プチャーチン(2014)

石橋湛山(2013)

★栄西(2011)

吉田茂(2014)

★雪舟(2012)

★天智天皇(2011)

山上憶良(2013)

吉備真備(2012)

★藤原清衡(2014)(2011)

道元(2013)

★中臣鎌足(2012)

中村正直(2011)

グナリスト(2011)
★蓮如(2010)
★最澄(2010)
野々村仁清(2010)
★新渡戸稲造(2010)
浅井忠(2010)
★吉田兼好(2009)
池坊専慶(2009)
★大村純忠(2009)
★支倉常長(2009)

★津田梅子(2009)
藤原行成(2008)
無学祖元(2008)
村田珠光(2008)
鈴木春信(2008)
中江兆民(2008)
雨森芳洲(2007)
平塚らいてう(2007)
★高山右近(2007)
★酒井田柿右衛門(2007)

★北条時宗(2007)
★ヴァリニャーニ(2013)(2011)
(2008)
★モース(2013)(2012)(2006)
北里柴三郎(2006)
隠元隆琦(いんげんりゅうき)
(2006)
高向玄理(2006)

【大問2の文化に関する問題】

＜選択肢として出たもの＞

★モース(2013)(2012)(2006)
★フェノロサ(2006)(2010)(2011)(2013)(2014)
★ボアソナード(2012)(2011)(2008)
ナウマン(2012)(2006)
★ザビエル(2006)(2008)
★フロイス(2006)(2013)
★シドッチ(2013)(2011)
★レザノフ(2014)(2010)
★コンドル(2014)(2010)(2006)
★クラーク(2012)
★プチャーチン(2014)
クルーゼンシュテルン(2014)
ボンペ(2014)
キヨソネ(2013)
ビッドル(2014)(2011)
ケーベル(2013)
フォンタネージ(2013)
グアイスト(2012)
グナリスト(2011)
シュタイン(2011)
モッセ(2011)
フルベッキ(2011)
オルガンティーノ(2006)
ヴァリニャーニ(2013)(2011)(2008)
ベルツ(2006)

平将門(2013)
長屋王(2012)
額田王(2011)
推古天皇(2011)
持統天皇(2011)
★天智天皇(＝中大兄皇子)(2011)
光明皇后(2011)
★有馬晴信(キリシタン大名)(2009)(2007)
★大友宗麟(キリシタン大名)(2009)(2007)
★大村純忠(キリシタン大名)(2009)(2007)
★高山右近(キリシタン大名)(2007)
★小西行長(キリシタン大名)(2007)
★空海(真言宗、高野山金剛峰寺)(2010)
★最澄(天台宗、比叡山延暦寺)(2010)
行基(2010)
空也(空也上人像)(2014)
源信(往生要集)(2011)
★道元(曹洞宗開祖、正法眼蔵)(2011)(2010)
★親鸞(浄土真宗開祖)(2013)(2011)(2010)
★日蓮(日蓮宗開祖)(2013)(2010)
★一遍(時宗の開祖)(捨聖)(2013)(2011)
(2010)
★蓮如(室町時代の浄土真宗の僧)(2010)
★栄西(臨済宗開祖)(2010)
玄昉(2010)

★運慶(2014) (2006)
 ★快慶(2014)
 ★湛慶(2014)
 ★小野妹子(遣隋使、607年) (2006)
 ★犬上御田歟(最後の遣唐使)(2013) (2006)
 源義家(2014)
 大伴家持(2013)
 柿本人麻呂(2013)
 山部赤人(2013)
 ★北条時宗(元寇) (2007)
 ★北条泰時(御成敗式目を制定) ((2007)
 西行(2013)
 慈円(2013)
 高弁(2013)
 土佐光信(2012)
 狩野元信(2012)
 狩野正信(2009)
 土佐光信(2009)
 宗祇(2012)
 明兆(2012)
 淡海三船(2012)
 良弁(2012)
 円仁(2012)
 ★高向玄理(2012) (2006)
 徳富蘇峰(2012)
 ★藤原清衡(2014) (2011)
 藤原基衡(2011)
 藤原秀衡(2011)
 藤原泰衡(2011)
 奥州藤原氏4代100年の栄華(清衡、基衡、秀衡、泰衡)
 ★住吉具慶(2014) (2011) (2010)
 吉田兼好(2009)
 清少納言(2009)
 ★紀貫之(2009) (2008)
 ★三蹟(10世紀):小野道風・藤原佐理・藤原行成
 小野道風(2009)
 ★三筆(9世紀):空海・橘逸勢・嵯峨天皇
 藤原行成(2009) (2008)
 小野篁(2008)
 ★世阿弥(2009)
 ★千利休(2009)
 大内義隆(2009)
 島津貴久(2009)
 末次平蔵(2009)
 角倉了以(2009)
 支倉常長(2009)
 山田長政(2009)
 ★無学祖元(2008) (2006)
 ★夢窓疎石(2008) (2006)
 ★蘭溪道隆(2008) (2006)
 小堀遠州(2008)
 鈴木春信(2008)
 ★菱川師宣(2010) (2008)
 喜多川歌麿(2008)
 俵屋宗達(2007)
 鳥居清信(2008)
 山崎闇斎(2014) (2007)
 本阿弥光悦(2007)
 野々村仁清(2007)
 一条兼良(2014)
 北畠親房(2014) (2008)
 度会家行(2014)
 ト部兼方(うらべ) (2014)
 ★新井白石(2014) (2011) (2010) (2007)
 田口卯吉(日本開化小史) (2011)
 中江兆民(東洋のルソー) (2011) (2008)
 ★福沢諭吉(2011) (2008)
 森有礼(2008)
 中村正直(2008)
 西周(2008)
 ★岡倉天心(東京美術学校の設立) (2010) (2006)
 小山田薫(自由劇場の結成) ((2010)
 辰野金吾(東京駅の設計) (2010)
 黒田清輝(白馬会の結成) (2010)
 浅井忠(明治美術会を設立) (2010)
 市川房江(2009) (2007)

★与謝野晶子(2009) (2007)

平塚らいてう(2007)

高群逸枝(2007)

山川菊栄(2007)

野口英世(2006)

長岡半太郎(2006)

志賀潔(2006)

鈴木梅太郎(2006)

吉備真備(きびのまきび) (2006)

美濃部達吉(2012) (2010)

新渡戸稲造(2010)

吉野作造(2010)

片山哲(2014)

★河上肇(2012) (2010)

★幣原喜重郎(2014) (2013)

岸信介(2014) (2013)

東久邇宮稔彦(2014)

★鳩山一郎(2013)

吉田茂(2013)

★遣隋使(ご参考)

推古朝の倭国(倭國)が技術や制度を学ぶために隋に派遣した朝貢使のことをいう。600年(推古8年)～618年(推古26年)の18年間に5回以上派遣されている。なお、日本という名称が使用されたのは遣唐使からである。

★遣唐使(ご参考)

日本が唐に派遣した使節である。日本側の史料では唐の皇帝と対等に交易・外交をしていたとされるが、『旧唐書』や『新唐書』の記述においては、「倭国が唐に派遣した朝貢使」とされる。中国では619年に隋が滅び、唐が建ったので、それまで派遣していた遣隋使に替えてこの名称となった。寛平6年(894年)に菅原道真の建議により停止された。現在では中国側において派遣された遣唐使の墓が発見されたりしている。

【大問3の作品と著者の組み合わせに関する問題】

＜正解として出たもの＞

★新古今和歌集(藤原定家、藤原家隆) (2014) (2011)

★風土記(常陸、出雲、播磨、豊後、肥前) (2014)

★松尾芭蕉(野ざらし紀行) (2014) (2011) (2009) (2007)

★折たく柴の記(新井白石) (2014) (2011) (2010) (2007)

★ある女(有島武郎) (2014) (2011)

増鏡(南北朝時代に書かれた歴史書) (2013)

★往生要集(おうじょうようしゅう)(源信) (2013)

河竹黙阿弥(かわたけもくあみ) (2013)

塙保己一(はなわほきいち) (2013)

国木田独步(くにきだどっぽ) (2013)

風姿花伝(世阿弥) (2012)

★大鏡(藤原道長の栄華を批判的に記述) (2012)

恋川春町(こいかわはるまち) (2012)

佐藤信淵(さとうのぶひろ) (2012)

大岡昇平(おおかわしょうへい) (2012)

山家集(さんかしゅう) (2011)

伊勢物語(在原業平) (2011)

山東京伝(さんとうきょうでん) (2011)

田中丘隅(たなかきゅうぐう) (2011)

★平家物語(2010)

十六夜日記(いざよいにっき) (2010)

幸田露伴(2010)

万葉集(山上憶良、山部赤人、大伴旅人) (2009)

懷風藻(2009)

★方丈記(鴨長明) (2009)

樋口一葉(2009)

横浜毎日新聞(2009)

頭戒論(けいかんろん) (最澄) (2008)

金槐和歌集(源実朝) (2008)

★神皇正統記(北畠親房)(2014)(2008)
★国姓爺合戦(近松門左衛門)(2008)
一握の砂(石川啄木)(2008)
入唐求法巡礼記(にっとうぐほうじゅんれいこうき)
(2007)

★愚管抄(ぐかんしょう)(慈円)(2007)
★開国兵談(林子平)(2007)
★おらが春(小林一茶)(2007)
白樺(人道主義、理想主義)(2007)

【大問3の作品と著者の組み合わせに関する問題】

＜正解・選択肢として出たもの＞

★三経義疏－聖徳太子(2008)
★万葉集(2009)
★古事記(2009)
★風土記(2014)(2009)
★日本書紀(2009)
六国史(2009)
旧辞(2009)
★新古今和歌集－藤原定家・家隆(2014)(2011)
★古今和歌集(2014)(2011)(2006)
★後撰和歌集(2014)
★拾遺和歌集(2014)
★後拾遺和歌集(2014)
★金槐和歌集－源実朝(2010)(2008)
経国集(2008)
性霊集(2008)
山家集(2008)
凌雲集(2008)
和名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)(2014)
峰相記(ほうそうき)(2014)
日本霊異記(にほんりょういき)(2014)(2007)
東関紀行(2014)
松尾芭蕉－野ざらし紀行(2014)
松尾芭蕉－笈の小文(2011)
井原西鶴－好色五人女(2014)
井原西鶴－世間胸算用(2013)
井原西鶴－日本永代蔵(2011)
近松門左衛門－心中天網島(2014)
近松門左衛門－曽根崎心中(2013)
近松門左衛門－国姓爺合戦(2011)(2008)
仮名手本忠臣蔵(2008)
義経千本桜(2008)

東海道四谷怪談(2013)(2008)
戸田茂睡－梨本集(2014)
契沖－万葉代匠記(2014)(2013)
★新井白石－笈の小文、折たく柴の記、西洋紀聞
(2014)(2010)(2007)
★福沢諭吉－西洋事象、学問のすゝめ(2010)
山崎闇斎－分会筆録(2014)(2007)
山鹿素行－武家事紀(ぶけじき)(2014)
熊沢蕃山－大学或問(だいがくわくもん)(2014)
★有島武郎－或る女(2014)(2011)
小林多喜二－蟹工船(2014)
横光利一(2014)
川端康成(2014)
徳永尚(2014)
暗夜行路－志賀直哉(2014)(2011)
海に生くる人々－葉山嘉樹(2014)
痴人の愛－谷崎潤一郎(2014)
細雪－谷崎潤一郎(2014)
★吾妻鏡(2013)(2012)(2011)(2007)
★大鏡(2012)(2007)
★今鏡(2012)
★増鏡(2013)(2012)
★水鏡(2013)(2012)
★愚管抄－慈円(2013)(2010)(2007)
釈日本紀(2007)
源平盛衰紀(2007)
★往生要集－源信
正法眼蔵－道元(2013)
禁秘抄－順徳天皇(2013)(2012)
★清少納言－枕草子(2009)
★紫式部－源氏物語(2009)

- ★徒然草－吉田兼好(2010)(2009)
- ★方丈記－鴨長明(2013)(2010)(2009)
- 拾遺往生伝(2013)
- 河竹默阿弥(かわたけもくあみ)(2013)
- 近松判二－木朝廿四孝(2013)
- 鶴屋南北(四世)－東海道四谷怪談(2013)
- ★塙保己一群書類従(2013)
- 賀茂真淵－国意考(2013)
- 北村季吟－源氏物語湖月抄(2013)
- 関孝和－発微算法(2013)
- 国木田独歩－武蔵野(2013)
- 田山花袋－田舎教師、蒲団(2013)
- ★長塚節－土(2013)(2011)
- ★樋口一葉－たけくらべ(2013)(2009)
- ★二葉亭四迷－浮雲(2013)(2010)
- 風姿花伝(世阿弥)(2012)
- 花鳥余情(2012)
- 抄石集(2012)
- 一茶－おらが春(2012)(2007)
- 上田秋成－雨月物語(2012)
- 式亭三馬－浮世風呂(2012)
- 十辺舎一九－東海道中膝栗毛(2012)
- ★林史平－海国兵談、三国通覧図説(2012)(2007)
- ★渡辺崋山－慎機論(2012)(2007)
- ★伊能忠敬－大日本沿海輿地全図(2012)
- ★高野長英－戊戌夢物語(2012)(2007)
- 赤蝦夷風説考(2007)
- 太宰治－斜陽(2012)
- 木下順二－夕鶴(2012)
- 野間宏－真空地帯(2012)
- 大岡昇平－俘虜記(2012)
- 一六夜日記－阿仏尼(2011)
- ★更級日記－菅原孝標の女(2010)(2009)
- ★蜻蛉日記－藤原道綱の母(2010)
- ★土佐日記－紀貫之(2010)(2009)(2008)
- ★和泉式部日記－和泉式部(2010)
- 権記(日記)藤原行成(2008)
- ★保元物語(2013)(2009)
- ★平家物語(2010)(2009)
- 伊勢物語(2011)
- 宇津保物語(2011)
- 竹取物語(2011)
- 大和物語(2011)
- 落窪物語(2011)
- 宇治拾遺物語(2009)
- 山東京伝－忠臣水滸伝(2011)
- 滝沢馬琴－椿説弓張月(2011)
- 貝原益軒－大和本草(2011)
- 安藤安貞－農業全書(2011)
- 海保清陵－稽古談(2011)
- 本多利明－聖域物語(2011)
- 泉鏡花－高野聖(2011)
- 芥川龍之介－羅生門(2011)
- 中村正直－西国立志伝(2011)(2008)
- 新渡戸稲造－武士道(2010)
- 西川如見－華夷通商考(2010)
- ★新井白石－西洋紀聞(2010)
- ★杉田玄白－蘭学事始(2010)
- ★志筑忠雄－暦象新書(2010)
- ★本居宣長－古事記伝(2010)
- ★与謝野晶子－みだれ髪(2010)(2009)(2008)
- ★島崎藤村－若菜集(2010)(2007)
- 坪内逍遙－小説神髓(2010)
- 幸田露伴－五重塔(2010)
- 懷風藻－淡海三船(2009)
- 古今著聞集(2009)
- 尾崎紅葉－金色夜叉(2009)
- 森鷗外－舞姫(2009)
- 高橋由一鮭(2009)
- 高村光雲－老猿(2009)
- 中江兆民－民約訳解(2008)
- ★文鏡秘府論、十住心論、三教指帰－空海(2008)
- 顯戒論－最澄(2008)
- ★神皇正統記－北畠親房(2014)(2008)
- 邪宗門－芥川龍之介(2008)
- 智恵子抄－高村光太郎(2008)

一握の砂－石川啄木(2008)

赤光(2008)

円仁－入唐求法巡礼行記(2007)

★松尾芭蕉－奥の細道(2014)(2011)(2009)

(2007)

★与謝野蕪村－蕪村句集(2007)

★与謝野鉄幹(与謝野晶子の夫)

四鏡(しきょう)

平安時代後期から室町時代前期までに成立した「鏡物(かがみもの)」と呼ばれる『大鏡』・『今鏡』・『増鏡』・『水鏡』の4つの歴史物語(歴史書)。成立時期より前の時代の内容を扱っている。

【大問4の政治、事件に関する問題】

侍所(2014)

★壬申の乱(2014)

封建制度(2014)

★徳川家光と鎖国の関係(2014)

小泉純一郎(2014)

御家人(執権政治)(2013)

★四天王寺(厩戸皇子＝聖徳太子)(うまやどのみこ)(2013)

★明(勘合貿易)(2013)

徳川家斉(2013)

日新真事誌(にっしんしんじし)(2013)

防人(2012)

勘解由使(かげゆし)(2012)

守護(2012)

徳川家宣(いえのぶ)(2012)

内務省(2012)

大宰府(2009)(2011)(2014)

管領(将軍の補佐)(2011)

後醍醐天皇(院政を廃止)(2011)

徳川家光(2011)

シベリア出兵(2011)

御成敗式目(1232年、北条泰時)(2010)

★大宝律令(701年、刑部親王、藤原不比等)(2010)

★菅原道真(遣唐使の廃止)(2010)

★大宰府天満宮(菅原道真)(2009)

松平定信(2010)

文化財保護法(2010)

二条大橋(2009)

今川義元(2009)

★日米和親条約(2009)

ワシントン条約(2009)

応天門の変(2008)

宝治合戦(2008)

永享の乱(2008)

長州藩(2008)

日ソ中立条約(2008)

国分寺建立(聖武天皇)(2007)

斯波氏(管領の守護大名)(2007)

★生類憐みの令(徳川綱吉)(2007)

★津田梅子(2007)

普通選挙(2007)

義務教育9年制の法制化(1947年)(2006)

★古今和歌集(2014)(2011)(2006)

★武蔵国(金沢文庫)(2006)

★伊藤博文(松下村塾)(2006)(2008)(2011)

朱子学(2006)

【大問5の文化に関する問題】

飛鳥文化(中国南北朝文化)(2014)

硫黄(日明貿易)(2014)

狩野山楽(龍虎図屏風)(2014)(2011)

★中尊寺、毛越寺(もうつうじ)(岩手県)(2014)(2009)(2007)

坂本(延暦寺の門前町、明智光秀)(2013)

足利学校(関東管領上杉憲実)(2013)
菱垣廻船(大坂と江戸)(2013)
日新館(会津藩)(2013)
シャープ勧告(2013)
★厳島神社(平家納経)(2012)
★綜芸種智院(庶民の教育施設)(空海)(2012)
紅花(べにばな)(出羽村上の特産物)(2012)
別子銅山(住友財閥の基礎)(2012)
テレビ放送の開始(2012)
★太安万侶(保麻呂)(古事記、稗田阿礼)(2011)
宋銭(鎌倉時代に大量に輸入)(2011)
★東洲斎写楽(市川鯉蔵(いちかわえびぞう)の浮世絵)(2011)
滝廉太郎(荒城の月、箱根八里)(2011)
溝口健二(映画監督、ヴェネツィア国際映画祭)(2011)
在原業平(2010)
修二会(東大寺二月堂のお水取り)(2010)
浄土宗(専修念仏、法然、南無阿弥陀仏)(2010)
タイ(山田長政)(2010)
権現造(日光東照宮の本社)(2010)
羅生門(1951年、ヴェネツィア国際映画祭金獅子賞)(2010)

螺鈿紫檀五弦琵琶(らでんしたんごげんびわ)(2009)
寝殿造(足利義満の舍利殿(金閣)の初層)(2009)
青木昆陽(甘薯の栽培)(2009)
ラジオ放送の開始(2009)
天領(江戸幕府の直轄領)(2008)
西郷隆盛(2008)
ガスパル・ヴィレラ(堺を「東洋のベニス」を言った宣教師)(2008)
京都守護職(江戸幕府の役職)(2008)
正岡子規(歌よみに与ふる書)(2008)
懷良親王(かねよししんのう)(2007)
浅井長政(2007)
東山道(2007)
ロンドン(海軍軍縮会議の会場)(2007)
★薬師寺式(2007)
倭の五王(5世紀)(2006)
神戸市(大輪田泊、日宋貿易)(2006)
★ポーツマス条約(日露戦争、1905年)(2006)
★下関条約(馬関条約)(日清戦争、1895年)
★オランダ(鎖国体制下においても関係)(2006)
★永楽通宝(日明貿易)(2006)

【大問6の写真を用いて、絵画、仏像、建築物などの作品名、作者、名称、所在地に関する問題】
＜正解として出たもの＞

★蒙古来襲絵詞(文永の役)(2014)
荒神谷遺跡(島根県)(2014)
★空也上人像(六波羅蜜寺)(2014)
黒き猫(菱田春草)(2014)
東京国立博物館本館(コンドル)(2014)(2010)
(2006)
天寿国繡帳(てんじゅこくしゅうちょう)(中宮寺)(2013)
鑑真和上像(唐招提寺)(2013)
大仙院庭園(大徳寺)(2013)
都久夫須麻神社本殿(つくぶすまじんじゃ)(佐賀県)(2013)
麗子微笑(岸田劉生)(2013)

★瓢鮎図(ひょうねんず)(如拙)(妙心寺退蔵院)(2012)(2008)
春日大社(奈良市)(2012)
聖観音像(しょうかんのんぞう)(法隆寺)(2012)
★桂離宮(京都市)(2012)
収穫(浅井忠)(2012)
仏涅槃図(ぶつねはんず)(高野山)(2011)
★唐招提寺・金堂(奈良市)(2011)
阿修羅像(八部衆像)(興福寺)(2011)
★松林図屏風(長谷川等伯)(2011)
三菱一号館(東京都千代田区)(2011)
★高松塚古墳壁画(明日香村)(2010)
★中宮寺菩薩半跏像(斑鳩町)(2010)

★広隆寺半跏思惟像(はんかし(ゆ)いぞう)(京都市)(2009)

★平等院鳳凰堂(宇治市)(2010)

★ニコライ堂(コンドル)(2014)(2010)(2006)

雪松図屏風(せっしょうずびょうぶ)(円山応挙)(2010)

秋冬山水図(しゅうとうさんすいず)(雪舟)(2009)

★風神雷神図屏風(俵屋宗達)(2009)

★東照宮陽明門(栃木県)(2009)

★中尊寺金色堂(岩手県)(2014)(2009)(2007)

興福寺仏頭(蘇我石川麻呂)(2008)

鷹見泉石像(たかみせんせきぞう)(渡辺崋山)(2008)

★西本願寺飛雲閣(豊臣秀吉)(2008)

★上賀茂神社(京都府)(2008)

★救世観音像(厩戸皇子=聖徳太子)(2007)

★東海道五十三次(安藤広重)(2007)

湖畔(黒田清輝)(くろだせいき)(2007)

★慈照寺銀閣(足利義政)(2007)

★三仏寺投入堂(さんぶつじなげいれどう)(鳥取県)(2007)

悲母観音(ひぼかんのん)(狩野芳崖)(かのうほうがい)(2006)

見返り美人図(菱川師宣)(ひしかわもろのぶ)(2006)

★平等院鳳凰堂阿弥陀如来像(定朝)(じょうちょう)(2006)

★法隆寺金堂釈迦三尊像(鞍作鳥)(くらつくりのとり)(2006)

★東大寺南大門(重源)(ちょうげん)(2006)

【大問6の写真を用いて、絵画、仏像、建築物などの作品名、作者、名称、所在地に関する問題】
＜選択肢として出たもの＞

[絵画・絵巻・繡帳編]

真如堂縁起絵巻(2014)

後三年合戦絵巻(2014)

平治物語絵巻(2014)

一遍上人絵伝(2014)

阿弥陀浄土図(2013)

釈迦説法図繡帳(2013)

★中宮寺天寿国繡帳(2013)
(2011)(2010)

★当麻曼荼羅図(2013)(2011)
絵因果経(2013)

(2010)

両界曼荼羅(2011)

立てる像(2013)

天平の面影(2013)(2006)

読書(2013)

悲母観音(2013)

寒山図(2012)

清水寺縁起(2012)

五百羅漢図(2012)

餓鬼草紙(2012)

湖畔(2012)

鮭(2012)

無我(2012)(2006)

落葉(2012)

秋冬山水図(2011)(2009)

松鷹図(2011)

智積院襖絵(2011)

★洛内洛外図屏風(2011)
(2010)

★正倉院鳥毛立女屏風(2010)

山水図屏風(2010)

夕顔棚納涼図屏風(2009)

★唐獅子図屏風(2009)

★雪中梅竹遊禽図襖(2009)

不忍池図(2010)

十便十宜図(じゅうべんじゅうぎ
ず)(2010)(2006)

雪中老松図(2009)

松林図(2009)

釣便図(2009)

★瓢鮎図(ひょうねんず)(2013)
(2009)

春秋花鳥図(2009)

★鳥獣戯画(2008)

山水長巻(2008)

四季花鳥図(2008)

★富嶽三十六景(2007)

★東海道五十三次(2007)

金沢八景(2007)

木曾街道六十九次(2007)

東部名所(2007)

麗子像(2007)

あやめの衣(2007)

池畔納涼(2007)

わだつみのいろこの宮(2007)

金蓉(2006)

南風(2006)

ポッピンを吹く女(2006)

(ポッピン=ビードロ)

吉祥天像(2006)

[壁画編]

五重塔初重壁画(2011)

★高松塚古墳壁画(2010)

★法隆寺金堂壁画(2010)

[各種像編]

僧形八幡神像(2014)(2008)

須菩薩像(2014)

蘭溪道隆像(2014)

平清盛坐像(2014)

薬師如来像(2013)

盧舍那仏像(2013)

梵天像(ぼんてんぞう)(2013)

塔本塑像(2013)

★百済観音像(2012)(2007)

聖観音像(2007)

夢違(ゆめらがい)観音像
(2012)(2007)

★東大寺法華堂不空羂索観音
像(2007)(2006)

釈迦如来像(2012)

薬師如来像(2012)

★月光菩薩像(2011)

★日光菩薩像(2008)

四天王像(2011)

十二神将像(2011)

弥勒仏像(2011)

観心寺如意輪観音像(2010)
(2006)

神護寺金堂薬師如来像(2010)

★室生寺弥勒堂釈迦如来坐像
(2010)(2006)

飛鳥寺丈六釈迦如来像(2009)

法界寺阿弥陀如来像(2006)

★法隆寺金堂釈迦三尊像
(2009)

★薬師寺金堂釈迦三尊像
(2006)

薬師寺僧形八幡神像(2014)
(2009)

薬師寺東院堂聖観音像(2006)

★広隆寺半跏思惟像(2006)

★中宮寺半跏思惟像(2006)

元興寺薬師如来像(2009)

飛鳥大仏(2008)

執金剛神像(2008)

平田篤胤像(2008)

田沼意次像(2008)

伊能忠敬像(2008)

佐藤一斎像(2008)

[寺院編]

★興福寺(2014)(2013)

★薬師寺(2014)(2013)(2011)

★高山寺(2014)(2012)

★法隆寺(2013)(2011)

★建長寺(2014)(2007)

当間寺(2013)

飛鳥寺(2013)

矢田寺(2013)

★東大寺(2013)(2011)

★龍安寺(2013)

★西芳寺(2013)

★元興寺(2013)(2011)

★天竜寺(2013)(2012)(2010)
(開山(初代住職)は夢窓疎石)

★大徳寺大仙院(2013)(2012)

仁和寺(2013)

知恩院(2012)

三十三間堂(蓮華王院)(2010)

[神社編]

★平安神宮(2012)(2010)

松尾大社(2012)

石清水八幡宮(2012)

★上賀茂神社(2012)(2008)

下鴨神社(2012)

橿原神宮(かしはらじんぐう)(2010)

[遺跡編]

★吉野ヶ里遺跡(2014)

原の辻遺跡(2014)

大塚遺跡(2014)

★登呂遺跡(2014)

[人名編]

ラグーザ(2014)(2010)	★明兆(2008)	★足利義政(2008)
キヨソネ(2014)	★如拙(2009)	★徳川家康(2008)(2007)
★ファンラネージ(2014)(2010)	★長谷川等伯(2009)	★豊臣秀吉(2007)
★フェノロサ(2006)(2010)	★喜多川歌麿(2007)	後水尾天皇(2008)(2007)
(2011)(2013)(2014)	円山応挙(2009)	聖武天皇(2007)
ライト(2010)	土佐光起(2009)	智仁親王(2007)
狩野芳崖(2013)	久隅守景(2009)	秦河勝(はたのかわかつ)
黒田清隆(2013)	★中臣鎌足(2008)	(2007)
★藤島武二(2013)(2007)	★中大兄皇子(2007)	★葛飾北斎(2007)
松本俊介(2013)	蘇我馬子(2007)	歌川豊国(2007)
★尾形光琳(2014)(2011)	山背大兄王((やましろのおおえ	鈴木春信(2007)(2006)
(2008)	のおう)(2008)	岡田三郎助(2007)
海北友松(2011)	藤原光明子(2008)	青木繁(2007)
★狩野永徳(2009)	★鞍作鳥(2008)(2006)	★岡倉天心(2010)(2006)
★狩野山楽(2011)	英一蝶(2008)	運慶(2014)(2006)
狩野探幽(2009)	司馬江漢(2008)	観勒(かんろく)(2006)
狩野元信(2008)	亜欧堂田善(あおうどうでんぜ	円空(2006)
狩野正信(2006)	ん)(2008)	★法然(2013)(2006)
★住吉具慶(2014)(2011)	★雪舟(2008)	★栄西((2006)
(2010)	鳥羽僧正(2008)	★道元(2006)
池大雅(2009)	光厳天皇(2008)	★慈円(2006)

[庭園編]

依水園(2013)	仙巖園(2013)
玄宮園(2013)	養翠園(2013)

[歴史上の事件編]

応永の外寇(2014)	寧波の乱(にんぽ一のらん)(2014)
三浦の乱(2014)	元弘の変(2014)

[建造物編]

国立科学博物館上野本館	(2008)	★平等院鳳凰堂(2012)(2010)
(2014)	★西本願寺飛雲閣(2008)	(2007)
奈良国立博物館本館(2014)	(2007)	室生寺金堂(2011)(2009)
京都国立博物館(2014)	西本願寺鴻の間(2013)	★法隆寺金堂(2011)
国立民族学博物館(2014)	妙喜庵待庵(2013)	★東大寺三月堂(2011)
伊勢神宮内宮正殿(2013)	清水寺本堂(2012)	★東大寺正倉院宝庫(2011)
醍醐寺三宝院表書院(2013)	二条城(2012)	大倉集古館(2011)

聖徳記念絵画館(2011)	北野天満宮社殿(2009)	★厳島神社(2008)
三井組ハウス(2011)	富貴寺大堂(2009)	★日光東照宮(2009)(2007)
多摩聖蹟記念館(2011)	白水阿弥陀堂(2009)	★中尊寺金色堂(2014)(2009)
帝国ホテル(2010)	羽黒山五重塔(2009)	(2007)
★赤坂離宮(2010)(2007)	瑞巖寺本堂(2009)	宇佐八幡神社(2008)
★修学院離宮(2007)	京都御所常御殿(2008)	白水阿弥陀仏堂(2007)
日本銀行本店(旧館)(2010)	★慈照寺東求堂(2008)	富貴寺大堂(2007)(2006)
開智学校(2010)	★慈照寺銀閣(2007)(2006)	法界寺阿弥陀堂(2006)
園城寺金堂(2009)	石上神社(2008)	★円覚寺舎利殿(日本最古の
諏訪大社上社本宮(2009)	隅田八幡神社(2008)	唐様建築物)(2006)

安倍首相の意向で決まったNHK大河ドラマ「花燃ゆ」

NHK大河ドラマに関連する歴史上の人物、事件は、通訳案内士試験の＜日本歴史＞によく出題されるので、注意が必要です。

2015 年のNHK大河ドラマは、2年前の夏の時点では、「織田信長」になることがほぼ決まっていたましたが、安倍首相の意向で、安倍首相の地元である山口県を舞台にした「女性が主人公の物語」に変更することになり、異例の2～3カ月の準備で決まったのが「花燃ゆ」でした。

当初は、伊藤博文の妻が有力候補でしたが、伊藤博文は明治の元勳の中でも、突出した艶福家（要するに女性関係が激しい）なので、その妻が主人公となると、どうしても博文の女性関係もドラマの中の大きな要素にせざると得ない。事実、博文は、明治天皇から「いい加減にしろ」といさめられています。これは、NHKの大河ドラマには相応しくないという理由で、博文の妻は、主人公から外されました。

吉田松陰の妹・文（ふみ）が主人公なのですが、文（ふみ）の夫である久坂玄瑞にも、何人かの愛人がいたのですが、その一人佐々木ひろとの間には、息子もうけています。玄瑞は文（ふみ）との間には子供はいなかったが、玄瑞の浮気については、ドラマの中であっさり描かれているだけでした。

主人公にしては、文（ふみ）の史料があまりに少なく（ほとんどなく）、無理やり決めた感が強く、脚本、演出も随分苦労しているとの話です。吉田松陰の妹・文（ふみ）が主人公に決まった理由の一つは、安倍首相の大叔父（母方の祖母である岸信介の弟）である佐藤栄作氏が、萩市にある吉田松陰の銅像の題字を書いているということがあり（下の写真参照）、これが、最後のダメ押しになったようです。内閣総理大臣ともなると、NHK大河ドラマの内容の決定にまで影響力を発揮できることが、これでよく理解できます。

尚、安倍晋三氏の晋の字は、＜高杉晋作＞の晋をとったとのこと。このような背景を頭に入れて、下記の＜重要歴史事項＞＜重要人物＞をしっかりと学んでいただきたいと思います。

(2)＜重要歴史事項＞ & ＜重要人物＞

- | | | | |
|---------------|---------------|--------|-------|
| ・松下村塾 | ・日米修好通商条約 | ・桂小五郎 | ・井伊直弼 |
| ・明倫館 | ・安政の大獄 | ・佐久間象山 | ・坂本龍馬 |
| ・奇兵隊 | ・桜田門外の変(1860) | ・高杉晋作 | ・西郷隆盛 |
| ・尊皇攘夷 | ＜重要人物＞ | ・伊藤博文 | ・島津久光 |
| ・ペリー来航(1853) | ・吉田松陰 | ・前原一誠 | ・ペリー |
| ・日米和親条約(1854) | ・久坂玄瑞 | ・梅田雲浜 | |



←弟子の金子重之輔を従えてペリー艦隊を見つめる吉田松陰の像。明治維新 100 年を記念して建てられた。萩市椿東の吉田松陰誕生地にある。
(佐藤栄作氏による題字)

南蛮貿易開始から鎖国を経て開国への流れ

【南蛮貿易の開始】

明朝中国は海禁政策をとっていたが、勘合貿易により日明間の貿易は行われていた。しかし、1549年(嘉靖28年)を最後に勘合貿易が途絶えると、両国間の貿易は密貿易のみとなってしまった。ここに登場したのがポルトガルであった。ポルトガルは**トルデシャス条約およびサラゴサ条約**によってアジアへの進出・植民地化を進め、1511年にはマラッカを占領していたが、1557年にマカオに居留権を得て中国産品(特に絹)を安定的に入手できるようになった。ここからマカオを拠点として、日本・中国・ポルトガルの三国の商品が取引されるようになった。

徳川家康が政権を握ると、オランダ、イギリスに親書を送り、**オランダは1609年、イギリスは1613年に平戸に商館を設立した**。しかしながら、両国とも中国に拠点を持っているわけではなく、日本に輸出するものはあまりなかった。結果イギリスは1623年に日本を撤退、オランダの場合も、日本への進出は商業的というよりむしろ政治的な理由であった。なお、当時のスペインの関心はフィリピンとメキシコ間の貿易であり、1611年にセバスティアン・ビスカイノが使節として駿府の家康を訪れたが、貿易交渉は不調に終わっている。

【キリスト教の禁止】

ポルトガル船が来航するようになると、「物」だけではなくキリスト教も入ってきた。1549年のフランシスコ・ザビエルの日本来航以来、イベリア半島(スペインやポルトガル)の宣教師の熱心な布教によって、また戦国大名や徳川幕府下の藩主にもキリスト教を信奉する者が現れたため、キリスト教徒(当時の名称では「切支丹」)の数は九州を中心に広く拡大した。当時の権力者であった織田信長はこれを放任、豊臣秀吉も当初は黙認していたが、1587年にバテレン追放令を出し、1596年に土佐に漂着した**サン＝フェリペ号事件**が発生すると、切支丹に対する直接迫害が始まった(**日本二十六聖人殉教事件**)。

家康は当初貿易による利益を重視していたが、プロテスタント国家のオランダは「キリスト教布教を伴わない貿易も可能」と主張していたため、家康にとって積極的に宣教師やキリスト教を保護する理由はなくなった。また、1612年の岡本大八事件をきっかけに、諸大名と幕臣へのキリスト教の禁止を通達、翌1613年に、キリスト教信仰の禁止が明文化された。また、国内のキリスト教徒の増加と団結は徳川將軍家にとっても脅威となり、締め付けを図ることとなったと考えるのも一般的である。

当時海外布教を積極的に行っていたキリスト教勢力は、キリスト教の中でも専らカトリック教会であり、その動機として、宗教改革に端を発するプロテスタント勢力の伸張により、ヨーロッパ本土で旗色の悪くなっていたカトリックが海外に活路を求めざるを得なかったという背景がある。一方、通商による実利に重きを置いていたプロテスタント勢力にはそのような宗教的な動機は薄く、特に当時、スペインからの独立戦争(八十年戦争)の只中にあったオランダは、自身が直近までカトリックのスペインによる専制的支配と宗教的迫害を受け続けたという歴史的経緯から、カトリックに対する敵対意識がとりわけ強かったことも、徳川幕府に対して協力的であった理由と言える。

とは言うものの、中国に拠点を持たないオランダやイギリスが直ちにポルトガルの代替にならない以上、ポルトガルとの交易は続けざるを得なかった。

なお、キリスト教に関しては、単に国内で禁止するだけでなく、海外のスペイン・ポルトガルの根拠地を攻撃する計画もあった。当時オランダ商館の次席であったフランソワ・カロンは1637年9月、長崎奉行榊原職直に対して、日蘭が同盟してマカオ、マニラ、基隆を攻撃することを提案した。その後まもなく長崎代官の末次茂貞は、商館長のニコラス・クーケバックルに対し、翌年にフィリピンを攻撃するため、オランダ艦隊による護衛を要請している。しかし、この計画は翌年の島原の乱で立ち消えとなった。

【島原の乱】

徳川幕府が鎖国に踏み切った決定的な事件は、1637年(寛永14年)に起こった島原の乱である。この乱により、キリスト教は徳川幕府を揺るがす元凶と考え、新たな布教活動が今後一切行われることのないようイベリア半

島勢力を排除した。ポルトガルは1636年以降出島でのみの交易が許されていたが、1639年にポルトガルが追放されると出島は空き地となっていた。1641年、平戸のオランダ商館倉庫に「西暦」が彫られているという些細な理由で、オランダは倉庫を破却し平戸から出島に移ることを強制された(ポルトガルは出島使用料を年額銀80貫払っていたが、オランダは55貫にまけさせている)。また、徳川幕府に対して布教を一切しないことを約束した。

しかし、島原の乱からポルトガル追放までは2年の間がある。これはオランダがポルトガルに代わって中国製品(特に絹と薬)を入手できる保証がなかったことと、日本の商人がポルトガル商人にかなりの金を貸しており、直ちにポルトガル人を追放するとその回収ができなくなることが理由であった。

【貿易の管理】

戦国時代から江戸初期にかけて、国内各地で大量に金と銀(特に銀)を産出していたため、交易においてもその潤沢な金銀を用いた。他方、江戸初期においては特に輸出するものもなく圧倒的に輸入超過であり、徐々に金銀が流出していった。このため、幕府は1604年に糸割符制度を設けて絹の価格コントロールを試みた。17世紀も後半になると金銀の産出量が減り、このため1685年には貿易量を制限するための定高貿易法が定められ管理貿易に移行した。

また現代的視点では、長崎の出島・堺を始めとした有力港湾を徳川幕府の直轄領(天領)、若しくは親藩・譜代大名領に組み入れることによって、徳川幕府による管理貿易を行い収益を独占した、という研究がある[要出典]。しかし、幕府は藩の直接的な貿易を禁止したが、幕府自身も直接的な貿易を行っているわけではなく、また「鎖国」成立当初において幕府が長崎貿易から利潤を得ていたわけでもない。貿易の管理・統制については、貿易都市長崎および商人を通して間接的に行っていた。

【鎖国完成まで】

「鎖国」体制は、第2代将軍秀忠の治世に始まり、第3代将軍家光の治世に完成した。

1612年(慶長17年)幕領に禁教令

1616年(元和2年)明朝以外の船の入港を長崎・平戸に限定する。

1623年(元和9年)イギリス、業績不振のため平戸商館を閉鎖。

1624年(寛永元年)スペインとの国交を断絶、来航を禁止。

1628年(寛永5年)タイOWN事件の影響で、オランダとの交易が4年間途絶える。

1631年(寛永8年)奉書船制度の開始。朱印船に朱印状以外に老中の奉書が必要となった。

1633年(寛永10年)第1次鎖国令。奉書船以外の渡航を禁じる。また、海外に5年以上居留する日本人の帰国を禁じた。

1634年(寛永11年)第2次鎖国令。第1次鎖国令の再通達。長崎に出島の建設を開始。

1635年(寛永12年)第3次鎖国令。中国・オランダなど外国船の入港を長崎のみに限定。東南アジア方面への日本人の渡航及び日本人の帰国を禁じた。

1636年(寛永13年)第4次鎖国令。貿易に関係のないポルトガル人とその妻子(日本人との混血児含む)287人をマカオへ追放、残りのポルトガル人を出島に移す。

1637年～1638年(寛永14年～15年)島原の乱。幕府に武器弾薬をオランダが援助。

1639年(寛永16年)第5次鎖国令。ポルトガル船の入港を禁止。それに先立ち幕府はポルトガルに代わりオランダが必需品を提供できるかを確認している。

1640年(寛永17年)マカオから通商再開依頼のためポルトガル船来航。徳川幕府、使者61名を処刑。

1641年(寛永18年)オランダ商館を平戸から出島に移す。

1643年(寛永20年)ブレスケンス号事件。オランダ船は日本中どこに入港しても良いとの徳川家康の朱印状が否定される。

1644年(正保元年)中国にて明が滅亡し、満州の清が李自成の順を撃破して中国本土に進出。明再興を目指す勢力が日本に支援を求めるが、徳川幕府は拒絶を続けた。

1647年(正保4年)ポルトガル船2隻、国交回復依頼に来航。徳川幕府は再びこれを拒否。以後、ポルトガル船の来航が絶える。

1673年(延宝元年)リターン号事件。イギリスとの交易の再開を拒否。以降100年以上、オランダ以外のヨーロッ

パ船の来航が途絶える。

鎖国実施以前から、幕府は貿易の管理を試みていた。1604年には糸割符制度を導入し、生糸の価格統制を行った。糸割符は1655年に廃止され、長崎では相対売買仕方による一種の自由貿易が認められて貿易量は増大したが、1672年に貨物市法を制定して金銀流出の抑制を図り、さらに1685年には定高貿易法により、金・銀による貿易決済の年間取引額を、清国船は年間銀6000貫目・オランダ船は年間銀3000貫目に限定した。のちに、これを超える積荷については、銅・俵物・諸色との物々交換による決済(代物替)を条件に交易を許すようになったが、1715年の海舶互市新例により代物替が原則とされた。また、定高は1742年と1790年の2回にわたり引き下げられたため、代物替による交易が中心となっていった。

いわゆる「鎖国」政策は、徳川幕府の法令の中では徹底された部類ではあったが、特例として認められていた松前藩、対馬藩や薩摩藩では、徳川幕府の許容以上の額を密貿易(抜け荷)として行い、それ以外の領内を大洋に接する諸藩も密貿易をたびたび行っていた。これに対して、新井白石や徳川吉宗ら歴代の幕府首脳はこうした動きにたびたび禁令を発して取締りを強めてきたが、財政難に悩む諸藩による密貿易は続けられていた。中には、石見浜田藩のように、藩ぐるみで密貿易に関わった上に、自藩の船団を仕立てて東南アジアにまで派遣していた例もあった(竹島事件)。

【開国までの動きと鎖国の終焉】

18世紀後半から19世紀中頃にかけて、ロシア帝国、イギリス、フランス、アメリカ合衆国などの艦船が日本に来航し、交渉を行ったが、その多くは拒否された。

しかし、1853年7月8日には浦賀へアメリカのマシュー・ペリー率いる黒船が来航し、翌1854年3月31日には日米和親条約が締結され、終に開国に至った。その後、日米修好通商条約(1858年)を初めとする不平等条約が続々と締結され、「鎖国」は崩壊したのである。

1778年(安永7年)ヤクーツクの商人パベル・レベデフ＝ラストチキンが蝦夷厚岸に到着。松前藩に、交易を求めたが拒否された。幕府には報告されず]。

1787年(天明7年)ラ・ペルーズ伯ジャン＝フランソワ・ド・ガローが日本近海を航海、千島列島、琉球列島を探検した。宗谷海峡の国際名称ラ・ペルーズ海峡は、彼にちなんだものである。

1791年(寛政3年)米国の探検家ジョン・ケンドリックが2隻の船と共に紀伊大島に到着、11日間滞在した。日本を訪れた最初の米国人。ロシアによる開国要求

1792年(寛政4年)アダム・ラクスマンが大黒屋光太夫ら3名を連れて根室に上陸、通商交渉を求めるも徳川幕府は拒否。しかし、長崎への入港許可証である信牌を与えた。

1804年(文化元年)9月、アーダム・ヨハン・フォン・クルーゼンシュテルンが率いたロシアの世界一周遠征隊が津太夫ら4名を連れ、信牌を持って長崎に来航。特使ニコライ・レザノフが交易を求め、翌年春まで幕府と交渉するものの最終的に拒否される。

1806年(文化3年)「文化の薪水給与令」が出される。

1806年(文化3年)～1807年(文化4年)レザノフの部下であるフヴォストフが樺太の久春古丹や利尻島、択捉島の番屋を襲撃(フヴォストフ事件、文化露寇)、中川五郎治と佐兵衛がロシアに連行される。この事件は幕府が蝦夷地防衛に乗り出すきっかけとなり、日露間の緊張が高まった。薪水給与令は1年で取り消される。

1811年(文化8年)ヴァーシリー・ゴローニン大尉が国後島に上陸、捕らえられその後2年間抑留された(ゴローニン事件)。

1812年(文化9年)8月、ディアナ号が国後島に来航する。日露間で捕虜交換交渉が行われるが、日本側の捕虜である中川五郎治と歓喜丸漂流民6名が脱走したために交渉が決裂。帰途、ディアナ号艦長ピョートル・リコルド(ロシア語版)は報復として附近を航行していた歓世丸を襲撃、高田屋嘉兵衛を拘束し、翌年6月まで抑留する。

1813年(文化10年)9月、ディアナ号がゴローニンの解放交渉と日本人漂流民の久蔵の送還のために箱館に来航する。なおこの時、ロシアに帰化した善六がロシア側の通訳として使節に同行していた。

フランス革命戦争とナポレオン戦争の余波

1797年(寛政9年)から1809年(文化6年)にかけて、本国がフランスに占領されてしまったため、オランダ商館

長ヘンドリック・ドゥーフの依頼で数隻の米国船がオランダ国旗を掲げて出島での貿易を行った。

1808年(文化5年)オランダと敵対関係にあった英国の帆走フリゲート・フェートン号が、オランダ国旗を掲げ長崎に入港。フェートン号事件を起こす。その後も英国船出現が相次いだ。

1830年(文政13年)徳川幕府が領有宣言をしていたものの無人島となっていた小笠原諸島の父島にナサニエル・セイヴァリーが上陸、入植した。

1837年(天保8年)商船モリソン号が音吉を含む漂流民を日本に送り届けるために浦賀に来航したが、異国船打払令に基づき日本側砲台が砲撃した(モリソン号事件)。この事件後、幕府内部でも異国船打払令に対する批判が強まった。

1842年(天保13年)アヘン戦争における清朝の敗北による南京条約の締結に驚愕した徳川幕府は、政策を転換し、遭難した船に限り給与を認める天保の薪水給与令を発令した。

1844年(天保15年)フォニエル・デュプラン大佐が率いるフランス海軍の遠征隊が琉球王国に来航、通商を求めるが拒否された。しかし、テオドル・フォルカード神父と通訳が那覇に残った。

1844年8月14日(弘化元年7月2日)オランダ軍艦パレンバン号がオランダ国王ウィレム2世の将軍宛の親書を携えていた長崎に入港。この親書はシーボルトの起草によるもので、開国を求めたが幕府はこれを拒否した。

1845年(弘化2年)捕鯨船マンハッタン号が、22人の日本人漂流民を救助し、マーケイター・クーパー船長は浦賀への入港を許可され、浦賀奉行と対面した。

1846年7月20日(弘化3年閏5月27日)アメリカ東インド艦隊司令官ジェームズ・ビドル代将は戦列艦コロンバスおよび戦闘スloop・ビンセンスを率いて、開国交渉のために浦賀に入港した。しかし、条約の締結は浦賀奉行に拒否され、数日の滞在で退去した。

1846年7月24日(弘化3年6月2日)フランスのセシル提督が長崎に来航したが上陸を拒否された。このとき、那覇に留まっていたフォルカード神父を伴っていた。

1848年(弘化5年／嘉永元年)ラナルド・マクドナルドが、日本人に英語を教えたいと自らの意志で、遭難を装って利尻島に上陸した。その後長崎に送られ、崇福寺大悲庵に収監され、本国に送還されるまでの半年間の間、ここで通詞14人に英会話を教えた。帰国後は、日本の情報をアメリカ合衆国本土に伝えた。

1849年4月17日(嘉永2年3月27日)ジェームス・グリーン大尉が艦長を務める米国の帆走戦闘スloop・プレブル(USS Preble)が、アメリカ捕鯨船員を救出のため長崎に来航、軍事介入の可能性をほのめかしつつ、交渉を行った。結果、船員とラナルド・マクドナルドが解放された。帰国後、グリーンは米国政府に対し、日本を外交交渉によって開国させること、また必要であれば「強さ」を見せるべきとの建議を提出した。彼のこの提案は、マシュー・ペリーによる日本開国への道筋をつけることとなった。

1849年(嘉永2年)英国海軍のブリッグ・マリナー号が浦賀に来航し、地誌的調査を行った。マリナー号には音吉が通訳として乗艦していた。音吉は日本とのトラブルを避けるため、中国人であると偽っていた。

1853年(嘉永6年)マシュー・ペリー率いるアメリカ艦隊が来航。開国を要求した。蒸気船の来航はこのときが初めてであった。

1854年(嘉永7年／安政元年)ペリーが再来航し、日米和親条約を締結。下田と函館を開港し鎖国が終わる。

1858年(安政5年)タウンゼント・ハリスと徳川幕府が日米修好通商条約を締結し、鎖国が完全に終わる。

なお、学問や商業目的の海外渡航が解禁されたのは1866年5月21日(慶応2年4月7日)のことであった。また、外国人の居住が自由になるのは、正式には内地雑居が認められる1899年(明治32年)7月16日である。

当初の「鎖国」の主目的であった「キリスト教の禁止」は、日米修好通商条約において居留地における教会建設と居留アメリカ人の信教の自由が認められたが、明治政府もしばらくは禁教政策を続けており、日本人に対する禁教が解かれたのは1873年(明治6年)であった。

外国・外国人関連事項

【日本に関係の深い外国人】

鑑真

唐の僧。日本の律宗の祖。8世紀中頃に来朝、東大寺に戒壇を設け聖武上皇以下に授戒。唐招提寺を創建。(2013)

ザビエル

1549 年、鹿児島に来日。のち平戸、山口で伝道し、日本で最初のキリスト教(カトリック)伝道者となる。(2008)(2006)

ヴァリニャーニ

1574 年、キリシタン時代の日本を訪れたイエズス会員、カトリック教会の司祭。イエズス会東インド管区の巡察師として活躍し、天正遣欧少年使節派遣を計画・実施した。(2008)(2011)(2013)

フロイス

16 世紀半ばにイエズス会宣教師として来日。信長、秀吉と親交を深める。名著『日本史』を残した。(2013)(2006)

シーボルト

19 世紀前期に来日、長崎郊外に鳴滝塾を開き医学などを教える。1828 年シーボルト事件により国外追放。(2013)(2011)(2007)

ペリー

1853 年黒船 4 隻を率いて浦賀に来航し開国を要求。1854 年日米和親条約の締結に成功する。(2009)(2010)

ハリス

初代駐日米総領事として下田に着任。1858 年日米修好通商条約の締結に成功する。(2010)

モース

明治初期に来日、動物学を講じた。大森貝塚を発掘し日本の考古学の祖となる。著書『日本その日その日』。(2013)(2012)(2006)

フェノロサ

明治初期に来日、日本の伝統美術の復興に尽力し、岡倉天心とともに東京美術学校を創立した。(2006)(2010)(2011)(2013)(2014)

ラフカディオ・ハーン

明治中期に来日、帰化して小泉八雲となる。著書に『怪談』『神国日本』『人生と文学』など。(過去 3 回以)

ヘボン

アメリカ人宣教師。1859 年来日。ヘボン式ローマ字を考案し、「英和学院」(現明治学院大学)を開いた。(過去 3 回以上)

プチャーチン

1853 年、長崎にパルラダ号で来航し、開国と国境の確定を要求した。(2014)

シドッチ

イタリア人イエズス会の宣教師で、1708 年に屋久島に上陸したが捕らえられ、江戸に送られ 5 年後に亡くなる。(2011)(2013)

ラスクマン

ロシア最初の遣日使節として、1792 年にエカテリーナ号でオホーツクを出発し根室に到着した。(2010)(2013)

ボアソナード

フランスの法学者で、幕末に締結された不平等条約による治外法権に代表される不平等条項の撤廃のため、日本の国内法の整備に大きな貢献を果たし、「日本近代法の父」と呼ばれている。(2012)(2011)(2008)

フルベッキ(2011)(2013)

グナイスト(2011)

シュタイン(2011)

モッセ(2011)

オルガンティーノ(2008)

マテオ・リッチ(2008)

【外国船に関わる事件】

サン＝フェリペ号事件(2010)(2009)

フェートン号事件(2010)(2009)

アロー号事件(2009)

モリソン号事件(2009)

ノルマントン号事件(2009)

【日本と世界との関わり】

日米和親条約(1854 年)

老中阿部正弘とアメリカのペリーとの間で締結された条約。神奈川条約とも呼ばれる。下田・箱館の開港、最恵国待遇の供与などが取り決められた。(2009)(2010)

日米修好通商条約(1858 年)

江戸幕府が米国総領事ハリスとの間に調印した条約。下田・箱館の他、神奈川・長崎・新潟・兵庫が新たに開港。領事裁判権を認め、関税自主権がないなど極めて不平等な内容であった。

日清戦争(1894～95 年)

朝鮮の支配権をめぐる日清両国の戦争。甲午農民戦争を契機に始まり、日本の勝利に終わった。下関で講和条約が締結された。

下関条約(1895 年)

日清戦争の講和条約。日本全権伊藤博文・陸奥宗光と清国全権李鴻章が下関で調印。清は朝鮮の独立を認め、日本への遼東半島・台湾・澎湖諸島の割譲、賠償金 2 億両(テール)の支払いなどを承認した。(2006)(2008)(2011)

日英同盟(1902 年)

桂内閣の時に締結された、ロシアの南下策に対するイギリスとの同盟。(2011)

日露戦争(1904～05 年)

満州をめぐる日露両国の戦争。日本軍の旅順攻撃に始まり、日本の勝利に終わった。アメリカのポーツマスで講和条約が締結された。

ポーツマス条約(1905 年)

アメリカのポーツマスで調印した日露戦争の講和条約。日本全権小村寿太郎、ロシア全権ウッテ。日本は韓国に対する優越権、旅順・大連の租借権、南樺太などを得たが、賠償金は得ることができなかった。(←2008 年度出題)(2009)

サンフランシスコ平和条約(1951 年)

日本と連合国 48 カ国との間に結ばれた第 2 次世界大戦終結のための講和条約。日本全権は吉田茂。翌年、日本は主権を回復した。